

学校生活の手引

泉 中

平成元年度改定版

岐阜県土岐市立泉中学校

は じ め に

「あなたは何のために学校へ来ますか」とたずねられたら、おそらくほとんどの人が「勉強するためです」と答えるでしょう。更にもっと考えた人は「よい社会人になるためです」と答えてくるかも知れません。

しかし、学校生活の中の一つ一つを取り上げて「M・Mは何のためにあるのだろうか?」「学活とは何だろうか?」などとたずねられたら、果して何人の人がこれに答えることができるでしょうか。

本校では、先生も生徒もみんなが実力のある民主的实践人として成長して行くための最も基本的なすじ道として、

- ① めあてをはっきり持って
- ② 自分の考えを生かしながら
- ③ 仲間同志励ましあって進むこと

つまり「三作り」を強調してきました。

しかも、この「三作り」は知っているだけでは、全く意味のないもので、学校生活の一つ一つの場を通して、理解して実践し、実践しながら理解して行くうちに身についていくものです。

この本には教育目標を最初に掲げて考え、次に道徳・学級作り・生徒会・クラブ活動・教科学習と順次一つ一つの生活の場をとり上げて、三作りが具体的に進められていく姿がえがかかれています。

これは皆さんの自由をしぼる規則書ではありません。それどころか、皆さんが若い意志を貫く中学生として理想を追求する足場になる「階段」のようなものです。

毎日中学校での生活の中を通して、この「階段」にしっかり足をかけ、眉を上げて一段一段と民主的实践人（教育目標）への道を、苦難にめげず、自分自身の努力で、みんなと助けあって高く登ってほしいものです。

目 次

泉 中 学 校 の 生 活	1
望 ま し い 学 校 生 活	1
校 旗 ・ 市 旗 掲 揚	4
日 直	4
M ・ M	5
授 業 に の そ む 態 度	6
休 み 時 間	7
給 食	8
そ う じ	9
昼 休 み	10
生 徒 会 活 動	10
生 活 部	12
健 康 部	12
学 習 部	13
週 番 活 動	14
会 計 長	14
放 送	15
黙 考 ・ 黙 書	16
生 活 バ ズ	16
大 徳 の 時 間	17
プ ロ グ ラ ム 委 員 会	18
部 活 動 ・ ク ラ ブ 活 動	18
下 校	19
家 庭 学 習	20
分 団 奉 仕 作 業	21

泉中学校の生活

「あゝねむい、もう5分だけねかせといて」「早くしないと遅刻するよ。」

と、こんな調子で一日の生活が始まる。顔を洗う・服を着がえる・朝食をとる・持ち物に忘れていた点はないかと、三作りノートで点検をしないところになると頭の中はしだいにすっきりして来る。

近所の友だちをさそって学校へ、おっと四つ辻では左右を確かめて――。

やがて学校生活のスタート、泉中学校の仲間たちは、一体どんな気持ちで、どんな問題を感じながら一日の生活を送っているのだろうか。多くの友だちにありのままの様子を述べてもらったのが以下に記したものです。

この中からまたあなた自身もいくつかの問題を見つけるでしょうが、それがやがて泉中学校をよりよくしていくためのエネルギーになるものと思います。これらの先輩たちの一日の生活のありさまや考え方は、泉中学校を巣立っていった多くの先輩たちそして在校生が考え出し、そしておこなってきた伝統のあるものです。みなさんも、さらにより泉中学校になるよう、そして自分を伸ばしていけるよう、よい生活のし方・考え方を生みだしてほしいと思います。

望ましい学校生活 (行動様式)

登校	持ち物をたしかめる。(学用品・ハンカチ・ハナ紙・身なり) ズボンの下にトレパンをはいてこない。 行って参りますのあいさつで家を出る。 正しい服装で胸をはって歩く。(カバン・ボタン・帽子など身なりに注意) きめられた通学路を通り、交通ルールを守って登校。(19号・21号の道路は地下道・歩道橋以外は通らない。) 7時30分以前には登校しない。部活動は進んで参加する。 下駄箱の靴はきちんと入れる。 更衣する。
(授業前)	日直以外は部活動に参加する。 部活動は7:40分より始める。 8時10分校旗・市旗掲揚で部活をやめて教室に入る。(校歌)

M・M	<p>8時20分本鈴で日直は教壇に立ちあいさつをする。日報を読み内容の徹底をする。</p> <p>保安委は出欠席調査及び健康観察を行う。M・M終了後直ちに保健室前の欠席調査板に記入する。</p> <p>学習週番はM・M状況のかんさつをする。</p> <p>朝の歌を元気にうたう。</p>
10分休み	<p>次時の準備をする。</p>
授業中	<p>チャイムですぐ席につく。静かに教科係の指示をまつ。</p> <p>教科係はすぐに位置について 起立・礼 } 始め「おねがいます。」 }</p> <p>起立・礼がうまくできぬときはやり直し } 終り「ありがとうございました」 }</p> <p>あてられたらはっきり返事をし、皆に聞える声量ではきはき発表する。悪い時はやり直し。</p> <p>話し合いはバスケット方式で行う。</p> <p>聞くときはだまって要点をメモしながら聞く。</p> <p>姿勢はこしかけを引き、背すじを伸ばす。</p> <p>採光と換気に注意する。</p>
10分休み 15分休み	<p>授業終了後窓を開ける。</p> <p>教科係は次時の準備をする。</p> <p>他の人も次時の準備をする。</p> <p>教室・廊下の安全に注意する。</p> <p>廊下を走らない。</p> <p>教室であばれない。</p>
給食	<p>手洗い・ウガイの励行をする。</p> <p>ナフキンを使う。</p> <p>無言配膳。配膳時に読書する。</p> <p>楽しく時間内に給食を食べる。</p> <p>残さないように食べる。</p>

放 送	放送は黙って姿勢を正しく聞く。予告音楽のうちに席につく。
昼 休 み	運動場で運動を積極的に行う。 図書館を積極的に利用する。 雨天の時は教室で図書を読む。 屋体と記念館は使用しない。
授 業 中	P 2 同 じ
掃 除	清掃バズを行って早く掃除にとりかかる。 手ぬぐいをかぶり、衛生に気をつける。黙って掃除する。(無言清掃) 窓をあけて掃除する。 時間一ぱいする。外掃除は草取りもする。 終わったら道具を片付け清掃バズを行う。
黙 考 黙 書	静かに一日の反省をする。 三作りノートに記入する。
生 健 バズ	めあてに従って三作りが出来たか班長中心で一日の反省をする。 生徒会関係の週計画にそって早くする。討論の必要な場合はプロ委が計画的に提案する。
部 活	部活の集合に遅れない。 積極的に参加する。(欠席するときは顧問教師と部長に報告する。) 出欠をとる。 安全を点検し無暴な行為をしない。 計画的に能率的に行う。 日直は下校30分まえになったら、教室に入り日直活動を行う。 校旗・市旗降納で部活動を終る。(土岐市民の歌)
下 校	教室を出る前に机列・腰かけ・机上をととのえ、出入口のドアをしめる。 よこれた衣類は、家に持ち帰る。 登校と同じように早く寝る。(服装をととのえて) 日直は教室の整理・整とんを行い、すみやかに下校する。

校旗・市旗掲揚

8時10分、部活も終わりみんながあとかたづけに取りかかるころ、当番により市旗・校旗が校歌に合わせて掲揚されます。これが私たち泉中学校生活の1日のスタートです。校歌が流れ出すと、仕事その他の活動などをやっている子も仕事をやめ、旗に注目します。

当番は総合部の生徒がやることになっています。

当番は8時10分頃までには旗を取りつけ、いつ音楽が流れてもいいようにします。旗を上げるのもたいへんな仕事で、音楽に合わせて、一定のスピードでそのうえ隣の人とも合わせなければいけません。とくに学期の始め頃は、市旗と校旗がバラバラに上ったり、音楽が鳴り終る前に上についたりして見ている方もハラハラさせましたが、時がたつにつれてうまくなりました。

そして、1日の学校生活も終わろうとしている下校15分前、朝と同じ当番の子が、土岐市民の歌に合わせて校旗・市旗が降納されます。ただぼんやりと注目しているだけでなく今日1日の反省、明日の目標などを考えられたらすばらしいことだと思います。やがて市旗・校旗が降ろされると当番は西がわの昇降口に旗をしまい、泉中の1日は終わるのです。

日 直

日直というものは、小学校という当番のようなものです。

まず、始業20分前に来て仕事を始めます。仕事の内容は、はじめに窓を開けて、黒板のさんなどをふき、日づけをかえます。

それから、職員室の先生の机の上から日誌と日報を持ってきます。日誌には、1日の中で気のついた事などを日直が書きます。日報は、きょうあることや、先生・生徒などへの連絡が書いてあります。

次に、そうじをします。そうじは、ゆかを簡単にはき、机・ロッカーなどの整とんとぞうきんがけゴミ捨て・花びんの水かえなどをやります。これだけが、日直がやる朝の仕事です。でも、これだけやればいいですが、中には8時10分すぎにきたり、10分までにきても友達としゃべったり、遊んでいる子も数少なくありません。

朝の仕事がすむと、次にM・M（モーニングミーティング）の司会をやります。M・Mでは、朝持ってきた日報をみんなの前で読みます。

各休み時間には、空気の入れかえ・黒板消し・いすの出ていた子の調査・机の整とん・教室内であばれている子に注意などをします。

帰りには生健バズの司会をやります。

生健バズでは、今日書いた日誌を読みます。それから、生健バズには逆点検というものがあります。逆点検というものは、みんなから見てきょうの日直はよくできていたか点検する時間です。逆点検でできることの例をあげてみると、「今日、A君が8時10分すぎに来たので気をつけて下さい。」とか「B君は、休み時間に日直の仕事をやらずに遊んでいたのので気をつけて下さい。」などですが悪いことばかりではありません。「きょうの日直は、黒板もきれいに消して、そうじもしっかりとやっていて、いいと思います。」といいこともあります。

この逆点検で悪いことが4つ以上出ると日直はやり直して、次の日も日直をやらなければなりません。そして、生健バズが終了します。

生健バズが終わったと同時に日直は次の班へタッチされます。タッチされた日直は、その日の放課後に教室内のそうじ（ほうきで簡単にはく程度）・机・いすなどの整とん・じょうをかうことをやっしてから家に帰ります。日直は、下校時間10分すぎまでに帰らなくてははいけません。

日直は、ただそうじをしてM・M、生健バズの司会をやればそれでいいと思われがちですが、そうではありません。大切なのは、みんなの生活状態に気をくばり、注意することです。

もし日直がいなければ、どうでしょう。日常生活は乱れてしまい、机はバラバラというふうになってしまわないでしょうか。こんなことからいっても、日直とは、なくてはならない大事な役わりを受け持っています。

M ・ M

まず私達のクラスのM・Mの様子を紹介する前に、M・Mとは、いったいどんなものなのか、ということを考えてみたいと思います。

簡単にいえば、朝の話し合い、出会いともいいたいでしょうか。「おはよう」という朝のあいさつから始まる学校生活……そうです。M・Mとは、一日の学校生活の第一歩なのです。全員がそろって、顔をあわして、「今日も一日しっかりやろう」という意味を持って参加するのです。

では、ここで私達のクラスのM・Mの様子が紹介します。

まず、M・Mの司会者は、その日の日直が行い、進めていくのです。あいさつから始まり、その次は歌です。

歌は、音楽係が中心となって、指揮をとって歌います。また、音楽の先生から、歌の曲目の指示があった場合は、その歌を歌います。

歌の次は、出欠調査です。これは保安委員が中心になって「休んだ人の隣の人は、手をあげて下さい」と聞くので、その隣の人は手をあげるのです。

その次は、日報です。日報というのは、その日一日の行事についてとか、土曜日ならば、一週間の

予定が、書かれてあります。又、先生・生徒への連絡なども書かれています。その他、いろいろな行事の結果や入賞者の発表もしてあり、時々ことわざも紹介されていることがあります。その日報は、日直がみんなにわかるように読んでいくのです。

日報の次は、係からの連絡です。部会などで決まった事の報告をしたり、その日にやってほしいこととか、注意などが連絡の内容です。

その次は、一分間スピーチです。時間の余裕をみて日直者が決定します。この一分間スピーチというのは、順番で回って来た人が、前に出て一分間、自分のことについてとか、家庭のこととか、友達のことなど、何でもいいのです。この一分間スピーチは、ある意味では、クラスの和作りの一つともなるのです。一分間スピーチを通して、みんなの中に溶けこめるのですから。

最後は先生からの話です。これも内容としては、係からの連絡と同じようなものです。一日についての予定とか注意、職員会議で決まったことの報告、その日に行ってもらいたいことなどが主な内容です。そして終りのあいさつ。

こんな事が今私達のクラスのM・Mで行っていることです。しかし、日報をとりあげても係からの連絡をとりあげても、どれもみんな自分にとって、大切な事ばかりです。

そう。M・Mは一日の始まりの中で、かかせない、とっても大切な時間なのです。

ですからM・Mは何のために行うのかという、M・Mの目的をみんながしておいて、M・Mにしんげんにとりくむ事が大切だと思います。

授業にのぞむ態度

私の家庭学習時間は2時間～3時間です。といっても1学期まではテレビを見ながらの学習でした。でもテレビを見ながらでは雑音が多く、理解できないため2学期頃からは、雑音がなく、まわりが整とんされている部屋で勉強するようになりました。初めは、予課についてはみんなもやってくるのだからあまり本気で考えていなくてもよいという慣れ合いの気持ちがあるため、いつも短時間で、そしてだいたいいいかげんなことを書いて終わらせていましたが、やはりそうすると学校での授業が消極的になり自分の考えを持つことができないのであまり楽しく思えなくなり、勉強がきらいになっていきます。ではどうしたら授業がよく理解できるようになるのでしょうか。それはまず授業がおもしろいと思えるようにしなくてはならないのです。私の実行している2つのことをあげてみると、1つめは自分で1つのことを徹底的にくわしく調べたり、疑問点を出して解決していくことです。予課はいいかげんでなく、わからないときでも疑問点をはっきりして、それを解決していこうという態度で授業に臨むところまでやります。2つめは復習のしかたです。1学期の私は復習がめんどうで、毎日予習だけに重点をおいていたので、テストのときになってどれから手に手をつけていいのか見当が

つかず大変困りました。そこで友だちからヒントを得て、2つのことを考えました。①授業中発表されたことなどを早くメモしていくこと。②ノート作り。つまりメモをとることによって人のほなしをよく聞きとらなくては……という自覚をもてることと、家でまとめやすいということが良い点だと思います。

ノート作りでは、私はノートの1番はじめの1ページに小5のとき先生から学んだ①、②のつかいわけ・そのノートをどのように使ったらよいか（目あて）を輸入しています。①は学校授業のききとり②は自分勉強なのです。それに色分け・矢印など。このようなことで授業のとき先生に質問されても前の授業・次に習う予習のところがすぐみつけれられるよう工夫しています。

私が今1番自 できることはどの教科書にも線や書き込みでギッシリとチェックしてあることです。一種の勉強ラクガキでしょう。パッと本を開いてみたとき（ああ、ここではこんな事がよみとれたナア）という具合に教科書を見ながら前の授業と関連づけて学習しています。

それと授業が楽しくなるということは予習したことを発表しあいそのことについていろいろ考えることができるということ。きいているだけでは、はっきりと覚えられなくても、発表して自分でそのことをいってみると、とてもよく頭にはいると私は思うのです。ただこれだけの事で50分間の授業が本当に短く感じられるのです。今の私はまだ計画が不十分ですが小学校の頃と思うと友達と先生の話の聞き、有意義な家庭学習法を生み出すことによって、授業にも関心をもてるようになったことをうれしく思います。社会に出たときや高校入試の時になっても困らないよう家庭学習で補いつつ授業主体に、3年生のゴールまでの階段を1段1段のぼっていくよう努力しようと思っています。

休 み 時 間

泉中の休み時間とは、いろいろな面でいかされています。

それは、仲間作りです。みんなが、特にクラスごとにまとまり、男女混じりながらバレーボールをしたり、バスケットボールをしたり、サッカーは、さすがに女子は参加しませんが……。

バレーボールでは男子がトスをあげて、女子がアタックするほどです。本当に仲良く過しています。みなさんもきっと休み時間は1人であることはないと思います。

仲間作り。そう、これは単に遊ぶことではありません。一緒にマラソンの練習をする人さえいます。そうかと思えば自分の属する部活動のコートなどへいき、レギュラーになるため、必死にかけまわっている人もいるのです。

しかし、その中に1人でやっている人はいないのです。チームワーク、これも、やはり仲間づくりです。

それでは、教室内ではどうでしょうか。勉強している人がいます。ガリ勉かと思えば、実は予習課

題や復習課題を忘れてきた人達が、あせってやっているのです。休み時間は、グループの人達にも気楽に話して教えてもらえます。泉中のバズ学習が、こんな小さなところで、とても役にたっています。もしグループの人達が、わからなかったら……。だいじょうぶです。先生に聞けば、よく教えて下さいますし、それによって先生との仲もよくなります。こんな時でも、休み時間は楽しいものであり、なおかつ、ありがたいものなのです。

こんな時、役員の人達は損なのでしょうか。生徒会室では、いつも会合がつづき、役員は週に1、2度ひっぱり出されます。

だから、前にのべたような楽しい休み時間をつぶされてしまうのです。

ところが、役員は各クラスから出ているので他の人達とも顔を合わせなければなりません。自然に仲良くなるものです。他の学年の方と仲良くなれるのは、部活動の他にもあったのです。

まだまだ例はありますが、休み時間には多くの仲間作りがされています。休み時間とは、使い方により、とても楽しくもなり、その日を決めることにもなりかねません。大切に、ゆっくりと過ごしていけるでしょう。小さな仲間作りを自分達が生んでいることに気がつかないで。

給 食

4時間目が終わるチャイムになると、給食当番は、エプロン・三角布・マスクを身に着け、コンテナ室に行き、食器・食缶を教室に持って行きます。給食当番は、大変重要な仕事です。クラスの人たちが、ゆっくりと食べられるようにするためです。そのために「45分配膳」というのがあります。50分配膳とは、12時30分から12時45分までの15分間に配膳をすませるということです。その間にはいろいろなことがあります。

まず、授業が終わると、みんなはナフキンをしき、手を洗いに行きます。そして、「43分着席」といい、みんな43分に席に着いて、「配膳読書」といい、席に着いている時に、本を読むのです。しかし、みんななかなか席に着いてくれません。ですから、給食委員がベルタイマーをならして、みんなに席に着かせるようにしています。

そして、給食当番は、50分配膳を目指して、牛乳や弁当、副食を配る人、お皿に副食を乗せる人など、8人で仕事を分けて、てきぱきと、仕事をすすめています。そして、給食委員が合掌して、食べます。1時15分になるまで25分間あるので、グループの人たちと、しゃべったりして、ゆっくりと食べたりしていますが、しゃべってばかりで、時間までに食べられないということも……。そして、全員が食べ終わった後、又は、1時13分ぐらいになったら、みんなが席に着くまで待って給食委員が合掌します。その後、給食当番は、すぐコンテナ室に食器・食缶を持っていきます。

しかし、給食については、いろいろな問題があります。服装・50分配膳・43分着席……。しか

し、クラスのみんで解決し、よりよい給食時間にしようとしています。

そ う じ

私達のクラスの掃除分担は、教室（3グループ）、音楽室（2グループ）、中央土間（1グループ）職員室側のろうか（3グループ）、東通路（1グループ）の5ヶ所に分かれています。

まず、清掃取りかかりの音楽のなっている間に、全員頭おおいをかぶります。

それから、14時45分までに、各掃除場所へ移ります。そして無言で班長の司会で計画バズを行い、割りふりをします。

教室は、ほうき係・濡れぞうきん係（これは、机などをふく仕事です）・ゴミ捨てが1人、後は、全員からぶきぞうきんという分担に分かれていて、からぶきぞうきんの子は、もう1つ仕事があるのです。

それは、いすを机上におき、つることです。

掃除時間が始まると、ゴミ捨て係が、トップを切って仕事にかかります。

そうです。ゴミ捨ては、最初にやることになっているのです。

からぶきぞうきんで、まず端から端へとかけ、すみに集まったゴミをほうきが、取り除きます。

それがすむと、自分に割りあてられている床の板を4枚、両ひざをつき、両手で力をこめて、こすります。

だれでも、やり始めるとき「ああ、また掃除の時間がきちゃった、やりたななあ」と、思いながらやっているんだけど、時々、となりの子のでき具合をみて、「わぁ、〇〇ちゃん、私のより、ピカピカやん、よし、私もいっちょやったるか」とやる意欲がわいてきて、競争半分です。

反対側も同じ形式でやり、掃除終了4～5分前になると、机をきれいにならべ、いすをおろしかかります。

もうその時は、汗がじわじわとにじみ出るような思いです。

職員室前のろうかでは、2人がほうきを使い、あの子はからぶきで、校長室の端のろうかから東へ向かって競争です。

男子4～5人が、ずらりとならび「用意、どん！」でスタート。

ダダダダという音が、ろうかにひびいてくるようです。

それがひととおりすむと、次は、ある箇所分割して、両ひざをつき、両手でゴシゴシ。

ここも、また汗が、じわじわとにじみ出てくるような思いです。

こうして掃除終了の音楽（15時00分に鳴ります）で、反省バズをします。

今日の掃除時間の反省をのべ、今日悪かったところを反省し、明日の目標、つまり「今日は〇〇の

所が悪かったから、明日特に〇〇の所をしっかりとやりましょう。」ということです。

反省バズはその各場所ごとに班長を決め司会をします。これが掃除時間でやることはすべて終了です。

昼 休 み

昼休みは、15分休とちがって私たちにとってはかけがえのない休み時間です。

ほとんどの人が運動場へ出て行って運動をします。

バレー・テニス・ハンドベース・鬼ごっこ……。運動場は、そんな遊びでいっぱいです。すみのほうで、1人で遊んでいる人はいませんですから、他のクラスの人たちなどとの、友情の輪も広めていけるのです。

教室の方に目を向けてみると、多くの人たちが本をかりたり、また返しにきています。生徒会室・特別室では、各部長会・専門部会もおこなわれます。用事をすませると、すぐ運動場にとんで行きます。夏はもちろんですが、冬でも暖ぼう器に、かじりついている人はいなく、だれもが外へ遊びに行くのです。昼休みはスポーツをするのが一番です。つまり、私たちにとって天国のようなひとときです。教室にとじこもっていないで、体力作り、そして、スポーツをするための自分なりのすばらしい昼休みにしたいものです。

生 徒 会 活 動

生徒会とはどういう所か、みなさんは知っていますか。小学校の児童会と似ている部分もあると思いますが、小学校は小学校、中学校は中学校で違うものなのです。当たり前、と思うかもしれませんがその当り前のことを自覚して中学校生活をおくってほしいのです。ここでは学校生活と係わりながら生徒会とはどうあるべきかについて説明したいと思います。泉中学校には、いろいろな規則があります。また、泉中学校独自の生活習慣というものもあります。しかし、これらの規則が必ずしも完全なものとは限りません。より楽しい学校生活を送り、住みよい学校にするために、常に見直し続け、場合によっては、必要ないと思われるものを省き、新たに必要と思われるものを作り出していかなければなりません。

そのために、生徒一人一人の力が必要になってくるのです。小学校と中学校の違いはここにあるのです。つまり、よりよい学校を作り出すために一人一人が自覚し、行動していくことが必要になってくるのです。とはいっても今までの生徒会は、その活動の多くを先生の力に頼らなければ動けなくなっていました。生徒たちの力だけで、よりよい学校を作っていこうとすることはとても難しいことな

生 活 部

生活部では、次の通り学校において生活面を受けもっています。

そして、その生活部に属する専門部のベルマーク委・清掃委と共に活動をしています。ところで生活面といっても、大変範囲が広い為、むずかしい事も多くふくんでいます。ですから、泉中における生活面のようすを良く知らないと、つまらない毎日になってしまいます。ここで簡単にその説明をします。学校に登校して、M・Mが始まります。

M・Mとは、モーニングミーティングの事で小学校の朝の会に似たようなもので、よりよい1日を作り出す為におこないます。この時に1日の目当てを作りましょう。そして4時間の授業が終わると給食です。小学校より量が多くなるので、早くたべられませんが、すぐなれるでしょう。午後の授業が終わると清掃ですが、自分達の勉強の場ですので、進んでやりましょう。

次に泉中独特の黙考と生健バズが始まります。方法に問題があるようですが、わからない点を解決していく目的のもとにあります。

生健バズの時に目当て及び1日の反省をしてください。以上が泉中における1日の生活のリズムです。

さて、今度は現在生活部の取り組んでいる事や、みなさんへの助言を書いてみます。

生活部の活動方針は清掃活動・服装・日直活動やきまり等の徹底です。

服装の徹底については、現在やっていますが、なかなか思う様にいかなくて悩みの1つです。方法として月目標にして点検活動を行っています。又、泉中では登校したら運動服にきがえるという事が決定し、おこなわれています。

これは、みなさんへの助言ですが頭髮は短い方が良いでしょう。理由は手入れが大変だし、勉強のじゃまになりますから。

健 康 部

健康部の活動について少し説明しておきましょう。

健康部は、前年度後期の生徒会活動方針に基づいて全校の生徒の健康面について、活動を行なっていくのです。健康面と一口に言っても、ただ運動をさせるのが健康部の仕事ではないのです。健康面での仕事とは、生徒に強い体力と健全なる体をもたせること。生徒から事故をなくすることが健康面での仕事なのです。

生徒に強い体力と健全なる体をもたせるために部活動があります。この部活動が生徒に強い体を持

たせる一つの方法です。この楽しくてすばらしい部活動も、だらだらと行なったのではしかたありません。そこで健康として、この部活動を点検して、内容があり、生徒のためになるようにするのです。

1年のA君がいていました。「おれ〇〇部なんかに入らなきゃよかった。先輩はよくおこるし、えらいだけでおもしろくない。だから、今日は部活動をやっていかなんだ。」と。

そこで、ぼくはA君について、同じ部の生徒に聞いてみました。A君は、1年の最初のころは、みんなより体が大きいせいもあって、プレーも1年の中では一番じょうずにできたそうです。しかし、夏休みになってA君は、なぜか1日も部活動に出席せずに、みんなから引きはなされたのです。そんなことがあって、自然に先輩もA君をあいてにしなくなりました。

健康部として〇〇部に、「1日、部活動をやめて、A君のことについて、A君もふくめて話し合ってみてください。」といいわたしました。そのことについて、部で話し合ってもらってからA君も意欲的に部活動にできるようになりました。こんなことも、健康部の仕事の一つです。

又、生徒から事故をなくすために下校時刻について点検をしています。下校を点検しないと、生徒の下校時間が7時、8時になってしまうかもしれません。そんなことがあっては交通事故のもとです。

だから、生徒全員が安全にはやく下校できるように下校をしらべます。

このほかに保健安全・給食・交通安全などが健康部の仕事です。

学 習 部

学習部会では、生徒会の活動方針に基づいて、目目標の徹底や学習姿勢づくり、一分前着席の徹底三挙手一発言等の運動を進めています。

そうして生徒会員の関心を高めるため、各クラスの生健バズで、学級の学習についての問題をみつけ、その原因や対策について班バズ・全体バズの中で話し合ってもらい、解決の方向を探ってもらいます。

学習部会では、このような学習部に関する意見・学習のようす・その他各学級の諸問題について話し合っています。ぼくたち学習部長は昔のことわざにある「3人寄れば、もんじゅの知恵」ということを忘れません。話し合いこそ、お互いを理解し合える最高のものだからこそです。

このようにして原案が作られ議会で話し合われ、正式に決まることになっています。

そして、このような結果を生徒会員全員に伝えるのが新聞部であり、学習部が発行する学習だよりです。以上のようなことが学習部会です。

週 番 活 動

週番活動は生活部が担当します。各学年ごとに、自分たちの学年が常時使用している校舎を中心に見回ることにより、教室の様子などを通して、日直活動ができているか、学級の美化に努めているかどうかの学級は学級掲示にどんな工夫をしているかなどを見るのです。そのことにより、点検活動と共に他の学級から学び合う態度を育てていくのです。

活動は土曜日から始まります。そして、次週金曜の昼休みに生徒会室で週番の引継ぎ会を行ないます。引継ぎ会には、その週の週番と次週の週番、それに先生の週番が出席し、見回り結果などを交流し合います。ここで交流しあったことで、特に重要なことは、三部会に報告・検討されます。

週番の活動で、最も大切な活動は放課後の戸締り活動です。下校5分前になったらそれぞれ自分の学年の下校指導を開始します。そして、下校完了後戸締り活動を行ないます。戸締り担当は以下の通りです。

- 1年…中舎3階、1年昇降口、体育館
- 2年…中舎1階、2階、2年昇降口、北舎
- 3年…南舎、管理棟

しかし、何より大切なことは、戸締りのために同じ学年の仲間の教室を見回ることです。他の学級の姿からどれだけたくさんのかを学び、それを自分の学級に反映させていくことができるか、そのことなくして、ただ、戸締りの確認をして週番の先生に日誌を提出するだけでは意味がないのです。自分たちの手で学校生活を高めていこうとする気持ちが、すべての活動の中であって初めて、泉中が発展していくのです。

会 計 長

会計は、生徒会の金銭的な面を統括する場です。現在、生徒会予算は毎月生徒1人あたり30円のお金によってまかなわれています。このお金は生徒会運営と各委員会のために使われ、予算も会計長会で原案をたて、議会の承認によって執行されます。ただ、現状では予算が少ないので次に挙げる集金活動や廃品回収・バルマーク運動によって不足分が補われています。

第1に集金活動として1円貯金というものが行なわれています。毎週金曜日に集計し、たくさん集めた学級に対し、会計賞を出しています。このお金は、過去にはプール建設の大きな手助けをしたことがあります。現在は、主に生徒会行事において、金銭的な面で援助するために使われています。

次に募金活動ですが、今までは、「愛のひとしづく運動」などの募金活動期間は、そういった募金

のために、他の期間は部活募金として部活動備品購入の手助けとして行なわれています。

しかし、これら上記の集金・募金活動は、個人個人の持ってくる金額が異なるのに、それによる恩恵は全生徒に均等に与えられるという不合理さがあります。そうしたことが問題にされるにつけ、生徒会費の値上げによって全生徒会員から平等に徴収する形が望ましいと考えるのですが、なかなかままならないのが実情です。そこで、下記の方法によっても不足分が補われています。

その第一は新聞回収です。これも毎週金曜日に集計し、たくさん集めた学級に会計賞を出しています。そして、PTAの廃品回収の時にいっしょに出し、それによって得たお金の中から会計長の新聞回収の重さ分だけ算出して、生徒会の資金とするのです。このお金も主に生徒会行事（特に文化祭や3年生を送る会）の援助のために使われています。

もう一つ、これは会計長の仕事ではありませんが、生徒会の資金作りの活動として、ベルマークを集めています。ベルマークは1点が1円に換算され、それによって学校設備を購入することができます。

会計長の仕事は地味で目立たないことが多いのですが、生徒会活動を支える大切な活動なのです。会計長の活動が活発になればなるほど生徒会活動を活発にしていけることができます。

放 送

泉中学校には、2つの放送システムがあります。1つは全校放送であり、もう1つは学年放送です。全校放送はその目的によって、テレビ放送と普通の放送に使われています。

テレビ放送で教科の学習に利用されたり、生徒会活動の説明や連絡に利用されています。

さて、次に学年放送について述べてみたいと思います。全校放送と同じ、いやそれ以上に私たちの生活に密着しているものに学年放送があります。各学年ごとに放送設備が出来ており、学級・学年を高めるためにフルに利用されています。その日のでき事や連絡を始め三部の週反省、更には学年の先生が気づかれた私たちの生活態度などについて、要領よく説明されます。

三部長は具体的にどこのクラスの何が良かったか、また、何が悪かったのか。又何クラスの〇〇さんはとってもよい行いをしたなど、学年集団が今よりも一歩でも向上するように活用されています。

お互いにしっかり聞き・考え・行動していけるように努めます。そして、お互いの生活をより能率的にし、生活の向上を願っています。

黙 考 ・ 黙 書

「黙考」とは……？ 「黙書」とは……？

その文字のとおり黙って考えること。書くこと。

今日1日の反省・黙考・黙書の時間は5分、正課の授業が終了後間もなくテーマ音楽が流れはじめる。黙考と黙書が終るまでに自分としての生活バズ・健康バズ・学バズの予定を考えておくようにするとたのしくなる。

この黙考の時はろうかを歩いている、席についていなくても黙考の音楽がかかったらとまって目をつぶらなければいけません。

1日480分のうち2～3分ですからほんの少しの時間です。しかし、その480分のうち目をして反省する、この2～3分は大切な時間なのです。

今日は、日直だったけどしっかりやれたかなあ。また、やり直しかなあ。

このような反省はこの時しかないのです。もっと、まじめになって反省し、今日より明日を良い日にしよう。また、学習バズをしっかりやろうと考えるのです。

この黙考の時間をこのようにやればきっとすばらしい結果がいつかは得られることでしょう。

私は、生活リーダーですから、だいたい日は生活バズのことを考えます。

そうじのときの取りかかりのことや、トイレの下駄の整とんのことなどを考えます。静かな中で、一日の反省が出来ることは、心が落ち着いてたいへんいいなあと思います。

生 活 バ ズ

私たちの生活バズは、始めは時間がかかりすぎてこまっていました。

だけど、今ではとても能率的にできています。例として内容は、1日の反省、係からの連絡、日直の逆点検、先生からの連絡、お話、あいさつ というふうに行なっています。では、1つずつ内容を説明していきましょう。

- 1日の反省

今日1日の問題点を出してもらいます。それを班で話し合ってお互いに注意し合ったり、原因と対策を考えていくのです。

- 係からの連絡

曜日をきめて生徒会からの連絡や一週間の反省を行ないます。何をやるかという週計画にきめられていて、それにもとづいて行なうわけです。グループ点検で反省してから三部長は今日目当て

を守れた人に手をあげてもらいます。その中で解決できなかったことは、学活や班バズの方へまわします。

- ・ 日直の逆点検、給食当番の逆点検

ここでは日直に対してきょう1日の仕事があまくできたかを逆に点検してあげるわけです。この点検のおかげで日直の人の仕事が責任あるものになるのです。日直の人も学級のみんなも一生懸命になって学級をきずいていくのです。日直の逆点検はこれとこれというように、はん囲を決めてやっています。近ごろ日直がみんなに「◎自分で机の整とんをする」「◎窓側の人は窓しめ窓あけをする」「◎ゴミを拾う」などといったように、1人1人が自分で責任を持ってやっています。

- ・ 先生のお話し ・ あいさつ とあとは進んでいきます。

時間割りや学習計画をたてたりする時間は第5時終了後の生バズがはじまる前までに書くようにしています。

このような順序で行なっていますが、なかなかうまくいかなくて困ることがありますが、これも先生を中心とした学級全部の人たちと協力していきたいと思っています。

それぞれ学級で工夫して行っています。

大 徳 の 時 間

私たち、泉中は、毎週金曜日の生活バズ終了後から、下校までの時間を“大徳の時間”と呼んでいます。金曜日は放課後の部活動をなくして、大徳の時間となります。

『大徳』 辞書によると偉大な徳、立派な徳とあります。『徳』は、道徳的・倫理的理想に向かって心を養い、理想を実現していく能力として身に得たもの。また、その結果として言語・行動に現われ、他に影響、感化を及ぼす力。社会的な観点から評価される人格、とあります。したがって“大徳の時間”はそうした人格を磨くという願いを込めてつけられた名称なのです。

現在、大徳の時間は、大きく分けて学級大徳と生徒会大徳に分かれています。

学級大徳は学級活動や学年集会などを行なう時間です。特活同様、計画に沿ってそれぞれの学級で学級会・学級指導・学級レク・学年集会などの活動を行います。

生徒会大徳では、三部会・各専門委員会を行ない、他の人は学級の仕事をします。まず、大徳の始まる前までに、委員長・担任の先生などで、分担を行ない、みんなに作業計画や分担などを伝えます。作業内容は教室などの美化・修理・学級掲示物の作成などが中心となり、時には全校的な奉仕作業が入ってくることもあります。

生徒会の活動を行なう者も、学級の仕事をやる者も、泉中学校をより学校目標の姿に近づけようという願いを込めて活動するものです。そういったことを自覚してこの時間を一人一人が前向きにとら

えて活動して初めて『大徳』の名前が生きてくるのです。『大徳』の時間を通して、校舎を、校風をそして自分自身を磨き上げていきたいものです。

プログラム委員会

生徒会組織の学年版がプログラム委員会です。学年総合部会を頂点として、三部長会がもたれ、各学級の学級会・リーダー会へとつながっています。主に学年行事の方針作り・計画・準備などの取り組みや学年集会の立案が、その中心的な活動となりますが、学年としての立場から学校全体の取り組みを補強する活動も行なわれます。また、議会・三部会などや学級会などで、学年に一任されたこと学年として考えなければならないこととして出てきたことなどが、プログラム委員会の議題として登ることもあります。

部活動・クラブ活動

部長をしていたせいか私にとって部活動は1年生の頃からいやなことが数多くありました。いくら一生懸命に皆を引っばっていても反対に皆は私から離れていくことが少なくありませんでした。

たとえば、私自身ランニングとか体力作りなどは、けっして自分からどんどんやっていきたいものとは思えません。しかし、それをやらせ、また、やっていくのが私の勤めだと思い「ランニングをやろう！」といっても、ぶつぶつしているのです。「皆の意見も聞かないで自分だけで決めて健くなんて……。」といっているのです。でも皆の言うとおりにやっていたらバレー部はだらけた、しまりのない部になってしまうような気がしていやだったのです。

でも、そのまま押しきることもできず、比較的楽な体力作りをやり始めました。

そのたびに「私が悪かったのか？ 悪かったのならどうしていけばいいのか」をいやになるほど考えさせられました。でも、やはり自分のいいように考えてしまって「皆は私が悪いのなら、なぜはっきりいわないのか。どうしたらいいのかを考えないのか、皆のこと部のことを考えたことはあるのか」と、皆のせいにしてしまって、投げ出したときもありました。でもまた「それはいけない。もう1度部長としてやれるだけのことはやった」といえるまでやってみようと思いなおしてがんばりました。こんなことの繰り返しでした。今でもそんなに簡単に皆を引っばるということはできなくても1年生の頃のようにはならない自分を見て、皆が良く見えるようになった気がします。それに皆も自分かっとなことはあまりしなく、夏の大会をめざして力を注げるようになったと思います。

多勢の人の中の自分の存在とは、どんなものなのか。その中で自分は何をしていけばいいのか。そ

んな難しく苦しい問題といやがおうにも取り組んできた私に進歩がなかったとはいえないと思うのです。ほんとうに苦しかったけど、まだこれからもこんな苦しさにぶつかるかもしれないけど、前のように簡単に打ち返されることなく向っていけるようになったと思うのです。部活動はそんなところに一つの意義があると思います。

いやだったことばかりあげましたが、試合に勝つため大会で優勝するために汗を流すことは苦しいけれど、ここにも、もう一つの意義があると思います。私はバレー部ですから、サーブやパス、その他いろんな技術について学ぶもの楽しいものです。それに一番苦しいけれど、後でスカットするのはレシーブ練習です。取れないようなボールになんか近づくとして、すべりこんだり、ころんだり時にあざも作った。強いボールの時は「こんどこそ!」とくいついていって顔にぶつけられたり。そして、それを取ることのできた時ほどうれしいことはありません。そうしている時は何も考えず、ただボールを取ることだけを考えるからこんな楽しいのは他にありません。

部活動には、たくさん考えさせられることがあり、投げ出したくなるようなこともあったけれども学校生活の中で一番楽しい所だと思います。

下 校

下校時刻5分前になると、下校の音楽が鳴り出します。学校中の生徒は全部下校時刻には下校しなければなりません。部活動も、学級での仕事もすべてやめて下校するわけです。

教室では、日直の人がベルタイマーにあわせて「あと5分以内にうちへかえってください」と伝えます。殆どの人は早く服そうをととのえて、下校するのですが、なかにはゆっくりとやる人がいて日直の人を困らせることがあります。下校2分前になると校内放送で「下校2分前になりました。早く帰ってください」と放送がかかります。いよいよ忙しくなります。くつひもをしぼる人、かばんをとりにしる人、学生服に着がえる人、ボタンをはめる人などで教室の中はごったがえします。

そして、下校のチャイムが鳴ると、みんな一目散にかけだして行きます。

下校時刻5分前の音楽ですぐ行動をおこせば、こんなに忙しい目をしないですむのになあ、と思います。

下校時刻になると、下校当番の人は校門の所で点検活動をしています。

おくれる子は「放送がきこえなかった」とか「あとかたづけがおくれた」とかいろいろ理由を云いますが、これでは理由にならないと思います。なぜならこれは、他の人たちの行動をみていたり、時計をみていれば、分かるわけですから……。

下校時刻をきめてあるのは、何も私たちをしぼるためではありません。先輩から聞いた話しですが下校時刻がないときには、家でも分からないので、学校帰りによそへ遊びに行ったりして非行なども

あったそうです。今は家の人たちも学校の下校時刻がよく分かっているので、何時には家にかえることが出来るということで泉中の生徒はまじめで規律正しくなったと聞いています。

いつも思うことですが、時間を大切にすることは、自分の生活にけじめをつけ、自分の活動を向上させることにも役立つことだと思います。下校時刻一つ守れないでは何をやってもだめだと思っています。

最終下校時刻は次の通りです。

4月～新人戦（10月中旬） 17：30

新人戦～3月 17：30

家 庭 学 習

家庭学習は、個人が主体的に取り組んでやろうとしないとできるものではない。

また、ただがむしゃらに勉強しようとしてもすぐに、やる気がなくなってしまう。だから、短時間で集中的にやってしまうことが最もよいと思う。

短時間に集中してやるということは、机に向かっていても、ただぼんやりとしているだけではだめだ。能率をよくするためには気温と湿度を勉強に合わせて、適当に調整することも考えてみるというでしょう。

それから、朝の時間をフルに利用することもいいと思います。疲労が回復し、空気もさわやかな朝の時間は勉強のために最良の時間です。そのためには早く床について、できるだけ早く起きる習慣を身につけることです。朝のひとつきこそ、自分だけに与えられたもっとも能率のあがる時間であり、健康にとってもプラスになる一石二鳥の機会であるということも考えてみてはどうだろう。

また、帰宅してから夕食までの時間を活用することもいいことです。学校から帰宅してから夕食までの時間は、一日の疲れもあってぼんやり過ごしてしまいがちです。

しかし、この時間をあまり頭を使わないで機械的にできるようなもの、たとえば簡単な宿題などは使えば、それだけ時間を有効に利用したことになります。

次に話題を学習法にうつしたいと思います。まず、文科系のものについては、くり返し教科書を読むとか、問題集の練習問題を解くのはだれでもやっていることですが、それにちょっとしたくふうをしてみるとおもしろいと思います。

たとえば、教科書の重要ポイントに直接アンダーラインをすることをせず、トレーシングペーパーを教科書の各ページにかぶせて、その上から引くのです。そして、テストの前になるとアンダーラインの個所をマジックでぬりつぶし下の文字が見えないようにしてしまわれます。つまり、テストの形式にあるような、カッコに文字を入れるものと同じことになるわけです。こうしたちょっとしたくふう

うでも、教科書をじっくり読むくせがついてくるので、ふつうの人よりも2倍以上の効果があるようです。

つぎに、数学を中心にした学力向上のポイントをあげてみましょう。

- 練習問題をたくさんやること。
- 答が出ても、それをやめないで、正誤を確認し、間違い直しをしっかりとすること。
- わからない問題をそのままにしないで、友人や先生に質問すること。
- 復習を必ずすること。

何にしても大切なことは、いかに集中力をつけて自分に合った勉強をすすめていくかということでしょう。

分 団 奉 仕 作 業

この分団奉仕作業とは、“自分達の住んでいる街をきれいにすることにより、自分達の住んでいる町に愛着を持ち、住み良い環境づくりに積極的に取り組んでいける生徒を育て上げたい”ということをお願いして始められたものです。

分団奉仕作業を行なう日程は、原則として毎月第三日曜日の家庭の日の午前8時から9時までとなっています。各分団ごとで行ないます。しかし、分団によって班単位で行なうところもあります。年度はじめに分団会でどこをどのようにやるかについて計画を立てます。そして、第三日曜には、決められた場所へ、決められた持ち物を持って集合し開始します。

いわば、この奉仕作業とは、掃除のようなものなのです。どこを、どのように掃除するかと言えば例えば、自分達の町内に、公民館やクラブなどがあれば、それらの周りの草を ったり、草取りをしたり、ゴミを拾ったりします。他に溝なども大変汚れていたりした場合はきれいに掃除をします。参加率も、分団によっては異なっていますが、私達の場合特別用のある者を除いて全員参加します。

私達の行なっているのは奉仕作業です。ただの掃除や作業とはまた意味が異なっていると思います。心は無にして「奉仕作業」というものの意義を知り、積極的に取り組んでいけるようにしたいと思います。

目 次

1	泉中学校の教育(学習)目標	1	
	実 力	2	
	民主的な実践人	3	
	めあて作り 自分作り 仲間作り	4	
	週 行 事	5	
2	道徳及び日常生活	6	
	道徳学習のめあて	6	
	道徳学習の方法	6	
	道徳の時間の学習	7	
	日常生活の心がまえ	8	
3	学 級 作 り	13	
	学級作りのねらい	13	
	学 級 の 組 織	17	
	班	17	
	学級でのいろいろな活動	18	
	登 校 ... 18	日 直 ... 18	M.M(朝の会) ... 19
	休 息 時 間 ... 21	給 食 ... 22	清 掃 ... 23
	黙 考・黙 書 ... 24	生 健 バズ ... 24	下 校 ... 26
	学 級 会 活 動 ... 28	教 育 相 談 ... 30	係 活 動 ... 30
	大 徳 ... 31	統 合 時 間 の 活 用 例 ... 32	学 級 会 ... 33
	点検・評価活動について ... 33		
4	生 徒 会 活 動	34	
	全 校 集 会 ... 36	各 部 会 ... 36	専 門 委 員 会 ... 37
	保 安 委 員 会 ... 39	給 食 委 員 会 ... 39	バ ル マー ク 委 員 会 ... 39
5	教 科 学 習	40	
	学習に対する大切な心構え	41	
	学 習 の 輪	43	
	家庭学習〔予習課題学習〕	45	
	正 課 の 学 習	46	
	発 言 の 約 束	49	
	家庭学習〔復習 その日の復習・基礎復習〕	53	
6	部 活 動	54	
	めあて作り ... 54	自 分 作 り ... 55	仲 間 作 り ... 55
	部 活 の 時 間 ... 57	部 会 議 の 順 序 ... 58	部 長 会 ... 58
	生 活 手 引	60	
	保健室の利用のしかたについて(案)	60	
	推 薦 必 読 図 書	61	
	ルールを守ってたくさんの本を読もう	63	
	正しい服装(男子)〔登・下校時の服装〕	64	
	〔校内における服装〕	65	
	正しい服装(女子)〔登・下校時の服装〕	66	
	〔校内における服装〕	67	
	通学路を知ろう	68	

泉中教育を象徴する三つの碑（石造物）

本校の校門をくぐるとすぐ目に入るのが、前庭の芝生の中に立つ大きな石です。近よって見ると、漢字ばかりが一行に五文字ずつ四行記されています。本校第八代の成瀬信一校長先生が退職記念に寄贈されたもので、書かれている文字は、中国の陶淵明という人の作られた「勸学」（しっかり勉強しよう）という有名な詩です。五文字ずつ四行で作られたこういう詩を「五言絶句」といいます。

読み方とそのおよその意味は次のようです。よく味わいましょう。

歳	及	一	盛	
月	時	日	年	勸
不	当	難	不	
待	勉	再	重	学
人	励	晨	来	

盛年（元気な若い時代は）重ねて来らず（二度とは来ない。）一日（今日という日は）再びあしたなりがたし（再びは来られない。）時に及んで（その時その時ごとに）まさに勉強すべし。（しっかり勉強にはげみなさい。）歳月は（年月の流れは）人を待たず（私たちを待っていてはくれないのだ。）

勸学の碑のもう少し校舎よりも一つの碑があります。第五代の桑原恒夫校長先生の時代に、学校の教育の進め方を大改革されたのを記念して、泉中教育の一番中心となることから「自主・協同・創造」の六文字で現したものです。その願うもの内容は

- ☆ 自主＝自分のめあてをしっかりと持ち、めあてに向って自分から進んで
- ☆ 協同＝友だちと考えを交流しあい、鍛えあい、認めあい、助けあって
- ☆ 創造＝きのう・今日・あすとより高くより正しい自分を作りあげていこう。

ですからこの碑はむしろ「三づくりの碑」と呼ぶことにしましょう。

三つめが今紹介した二つの碑の東側、こんもり茂った理科園の木々の間にかっしりとした姿で立つ「大徳の碑」です。

本校のある泉町大徳という地名にちなんで名づけられたこの碑は、本校で学んだ人たちが将来へのめあてをしっかりと持って卒業し、母校との心の結びつきをいつまでも持ち続けられるようにと、第七代の田中鈴夫校長先生の時代に作られたものです。即ち、卒業式の日、巣立つ人たちがそれぞれに自分の将来への誓いの言葉を記した紙をこの碑に納めるのです。そして成人の日、この前にみんなが集り、この誓いの言葉を読み返し、今一度自分の進路を見直しながら、先輩の方たちが開いてくださる成人祝賀パーティに参加するのです。

なおこの碑には、中体連大会の壮行会の際にも各部の代表が大会へ向けての決意を誓う言葉も納められています。

またこの碑のかたわらには、この地を開かれた道灌坊大徳の碑もあります。

本校で行われるいろいろな奉仕活動に生徒会大徳・全校大徳・学級大徳という名がつけられているのは、活動を通して大きな徳を身につけようとしているからです。

1 泉中学校の教育（学習）目標

今日は民主主義の時代です。一人一人の国民がお互いに人格を尊重しあい、責任をわちあって、協力して問題を解決し、平和で文化的な住みよい社会を作り上げなければなりません。また、現代は宇宙時代と言うことばが代表するように、科学文明が高度に、しかも日進月歩の勢いで進行しています。こうした時代を、たくましく生きぬくと同時に、この社会に役立つためにはそれにたえる実力が一人一人の国民にとって絶対に必要です。

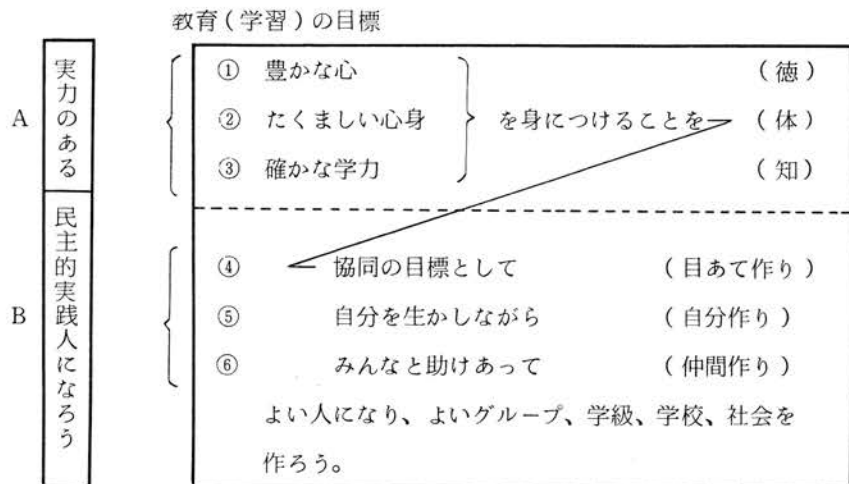
中学校というところは、このような社会と時代の要求にこたえて、民主的な人間としての実力の基礎を養うために、

- | |
|-----------------------------|
| ① 教育（学習）の目標をはっきりきめて、それをめざして |
| ② 教育（学習）の内容のしくみを立て |
| ③ 教育（学習）の方法を工夫しながら |

みなさん一人一人やグループや学級や学校全体を作りかえて伸ばして行くところです。

何の目あてもなくただ毎日学校へ来るだけでは全く意味がありません。

皆さんは、この学校の①②③について、よく理解し、しっかりした考えをもって毎日毎日前向きに実践をつみ上げて、よい泉中学校の生徒になるよう自分自身を作りかえ伸ばして行くように心掛けてもらいたいものです。



④ **実 力**

人間として円満な人格を作り、社会に役立つためには知・徳・体の調和のある発達をはかり、この三つの実力を身につける必要があります。

① 豊かな心を養なおう

本校生徒は一般におとなしく、暴力行為がないことはよいことです。しかし、やゝ自分勝手に、言葉使いが悪く、お互の人格を尊重しあったり、物を大切にするような気風に欠けているようです。民主的な社会を作りあげていくために、こうした欠点のあることは、残念なことです。

相手の立場を思いやったり、集団の立場を考えて協力しあい住みよく明るい社会（学級・学校）を作りあげるよう努力しましょう。

② たくましい心身をきたえよう

他校との対抗試合には、よい成績をあげています。しかし、全国の標準と比べて、まだ体格が小さく、体力が劣っています。特に、ねばり強くがんばる持久力や、旺盛なファイトに欠け、清掃作業に汗を流してとりくむ、といった積極性がみられません。

ファイトをもやし、運動や作業に、もっと前向きに、ねばり強くとりくんで、役に立つ健康な身体と、苦難にうちかつたくましい勤労精神を身につけたいものです。

健全な精神を健全な身体の中に育てあげましょう。

③ 確かな学力を身につけよう

学力テストなどの成績はよくて、喜ばしいことです。しかし日々の学習や生活の中に問題を見つけ、それを自分でじっくり考え解決し、発展させてよい作品や生活を創出していくような、本当の意味での学力（学びとった力ではなくて学びとっていく力）が高いとは言えないようです。これからは学習を進めるすじ道を理解し、自分から進んで、知識はもちろん、理解・技能・学習態度を高めながら、自ら問題を解決していけるような学力を身につけましょう。

①は生徒会生活部の目標であり、②は健康部の、③は学習部の目標であります。

この三つの目標はどれ一つ欠いても人間として円満な人格を作り上げることは出来ません。

(. . .)

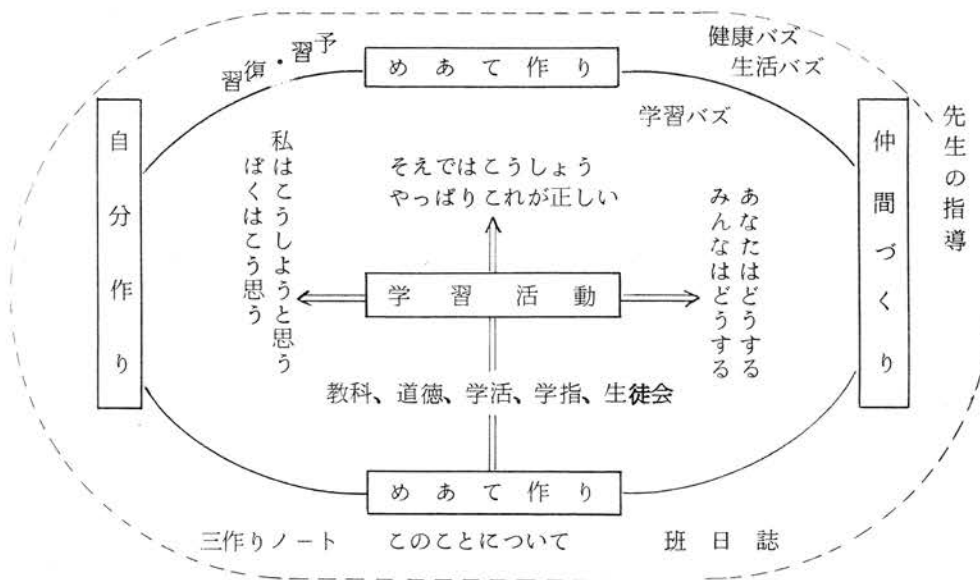
わたしたち人間は、だれでも正しく鍛えていきさえすれば、いくらでも伸びていく可能性を充分にもっている素晴らしい素質と能力を備えているものです。

Learning doing (なすことに応じて学習は成立する)とは、世界的に有名な教育学者J・デューイの言葉です。学習の仕方と努力に応じて、かくれた能力がみがき出され、どこまでも自分を作りかえ、育てていくことができるということです。このことは反面では、doing (なすこと)の方法がまちがっていたり、努力がたらないとどこまでも悪い方へ変っていくことをも意味します。学習の方法の大切なことを意味したことです。

② 民主的な実践人

民主的な生き方を簡単に言うならば、

- ① よりよい生き方や、学習課題を見つけたり、創り出して行くことについて
- ② 自分としての考えを持ち、すすんで
- ③ みんなの意見を聴いて、まとめていくことです。



のようになると思います。

①、②、③を三作りと言い、学級活動でも、バス学習でも、清掃・作業や教科学習・生徒会やクラブ活動など学校生活のすべての場で民主的に学習をすすめて行く場合の基本的な生き方です。

(1) めあて作り

現状になじまず常に新しいもの、よりよいものを創り出そうとする姿勢です。

ある事を doing するにも「今は何をするときか」目あてと、見通しと、計画をもって真剣に立ち向かうことが何よりも大切です。

一時間の授業にも、クラブ活動にも、清掃にも、バズ学習にも、その時間の「めあて」があります。それをはっきりつかんでやるのと、知らないでぼんやりやるのとでは、学習の成果が大きくちがって来ます。

まず、その時間の内容を、あらかじめ考えてみて、自分自身で問題を見つけ、「めあて」をきめ、計画をたててから、それにとり組み、最後までやりぬきましょう。ただぼんやりと学校へ来て、勝手に遊んで帰るだけでは学習は身につけません。

かりに「君は今何をしているの」と聞かれたとしたら、「何をめあてに、どういうことを、どんな順序でとり組んで、どこまでやっけていこうとしています」とはっきり答えられる生徒になりましょう。

毎日校門に入る時には学校の教育目標を思い出し、学習や特活の始めには、その時間の「めあて」をはっきりつかんで学習にとりくみましょう。

(2) 自分作り

学習の主体者は私たち自身です。

まず自分自身で考えたり、やってみたりして自分の考えを持つことです。集団で学習していると、誰かがやってくれるからと、自分を失って人まかせになりがちです。ひとりひとりが真剣に問題と対決し、自分で考え、自分で解決し、自分の考えを作りかえていく努力なしには、実力は身につけません。

学習するのは自分です。自分がやらなければ、自分でやれる力は身につけません。

まず、「やれば必ずできるようになる」ことに自信をもって、苦しいけれど、今はわけがわからなくても、それをやり抜いてみるだけのファイトと、根性を持つことが大切です。

(3) 仲間作り

学級や班やクラブを通して、あたたかく明るい何でも話し合える人間関係を作り、その中で、お互いに共通のめあてに向って、本音を出しあって、助けあい、教えあい、みがきあうことです。

「みんなが、ひとりの為に、ひとりひとりがみんなの為に」という気持ちで学級や班や

(. . .)

クラブの人間関係を、わけへだてのない暖かいものにすることが大切です。同時に、リーダーや先生が中心になって、共通のめあてに向ってお互に励みあい、みがきあえるような、学級やクラブのふんいきを作ることが大切なことです。

知ったかぶりをして、自分の意見や作品をかくしておいたり、恥ずかしがって自分の考えを仲間の前で発表することのできない人は、まずその心の壁をぶち破ることが必要です。学習はまちがいから出発するものです。まちがいをおそれたり、恥ずかしがったりしては、自分の学習も学級やクラブの成績も上るものではありません。

友だちの発言や努力をお互い大切に、それを認めあいながら、建設的にみがきあって、みんなが高まって行くように努力しましょう。

年間最終下校

4 月 ~ 新 人 戦	17 : 30
新 人 戦 ~ 3 月	17 : 00

週定例研修及び行事

曜		週	月	火	水	木	金	土
行 事	1	学年会 (行事関係)	小委員会	研推委	部 活 指 導 日	学級大徳 (週番会、総合部会、一人一役会、会計長)		分団長会
	2	学年会 (道徳)	小委研	三部研		生徒会大徳 (三部、専門部、会計)		
	3	学年会 (学指・活)	教科主任研	教科研		全校大徳 (週番会、総合部会、会計長)		
	4	職員会	特殊研	全校研		生徒会大徳 生徒議会)		
生 徒 関 係	昼休	学年・学級プロ委			週番引継ぎ			
	放課				部活部長会 執行部会			

2 道徳及び日常生活

1、道徳学習のめあて

私たちは、最初にのべたように「実力のある民主的な実践人になる」ことを学校の目標として毎日の学校生活を送っていますが、教科や学活やクラブ等の一つ一つの活動について、一番もともになる考え方に、太くたくましい筋金を正しくつらぬいておかないといけません。

長い人類の歴史の中で私たちの祖先は、すばらしい文明を生み文化を創り出して来ました。人間が二本足で立ち、言葉を持ち道具や機械を使ったことがこのすばらしい歴史を生んだ大きな力であったことにはまちがいありません。しかしそれ以上に大きな力となったものは、人間が常に自分自分の考えを持ちより、協同の力を結集することによって協同のめあてを達成しようとして来たことつまり自主性・協同性・創造性であったのです。

道徳とは人間として持つべきより正しい考え方や、よりよい行動のしかたをいうわけで、自主（自分作り）、協同（仲間作り）、創造（めあて作り）を太い三本の柱にしなが、祖先の築きあげてくれたすばらしい現在の上によりよい未来を創り出していくことのできる人としての生き方を学習するのが道徳学習のめあてです。つまり、家庭や学校や社会の中で、人として何を考え何を実践したらよいかを見つけ合い、話し合い、深め行うようになることをめあてに学習するのです。

2、道徳学習の方法

私たちは、自己反省や読書や生活バズやグループ日誌や三作りノート・黙考・黙書・道徳の時間などを通して、今ある自分の姿を見つめ、その欠点を正し、長所を伸ばして少しずつ自分の「心」と「行為」を創り変えていきたいものです。

その為には

つかむ → 気づく → 深まる → 広がる

という道すじをふまなくてはなりません。

仙人のように唯一人山にこもり、自分のからにとじこもっているのは、とても私たち自身を民主的な社会人として創りかえていくことはできません。

おけの中で「いもこで」をしながら里いもの皮がむかれ美しくされていくように、班や学級や学校という集団の中で大勢の友だちと一緒にお互いにもみあいながらみがきあうのです。ですから、そうした集団の場を通して

- 1、弱さを指摘しあい、謙虚にそれを認めるすなおさと
- 2、弱さを自覚しながらも、現実とのくいちがいから、すぐには直せないことを悩む考え深さと
- 3、その悩みを仲間の前にさらけ出して、よりよい生き方を探り出す為の努力をするねばり強さと
- 4、よりよい生き方を、なる程そうだとはっきり自覚し、納得することのできる豊かな心情と
- 5、過去の自分にこだわらず、より正しいと信じる生き方へと自分を敢然と創り変えていくことのできる本当の勇氣

こうした道徳学習は、大きく二つの方法が準備されています。

- ① 道徳の時間に資料などを使って「人間の行為」や「人間の心」について話し合い、考えを深めあいながら実行への心構えを作ること。
- ② 日常生活において、それぞれのねらいに合った正しい行動ができるように、実行につとめその習慣化につとめること。

このうち②については、教科学習・学級作り・生徒会活動・クラブ活動の学習の所でそれぞれのめあてや活動方法についてのべてあります。本ものの教科学習、本ものの学級作り、本ものの生徒会活動、本もののクラブ活動や部活動ができるようになることが、そのまま人間としての正しい生き方になりますから、ここでは、考え方をねる道徳時間の学習と、実践力をねり習慣化をねらう日常生活の心がまえについてのべることにしましょう。

3、道徳の時間の学習

道徳とは人間としての正しい生き方です。従って、道徳の時間には「人間としてのより正しい生き方」を学習するわけです。しかし、「こうしなければならぬ」といってみた所で果してそれが実行できるかどうかわかったものではありません。

私たちは、いろいろな場でいろいろな生活をしていますが、直接行動として表面にあらわれるのは、ほんの一部分で、実はそうした行動を起させるような心の問題を考えあうのが道徳の時間です。プリント資料などを材料（資料）にしなが、行動の裏付けとなった心を読みとり話しあい考えあっていくのです。人の心の中の中を読みとり、考えていくこと、それがそのまま自分の心の中を読みとり自分を見つめることになるのです。他の教科の学習とちがって教科書はありません。テストも通知表の点数もありません。気軽に話し合える学級作りの上に、お互いの心の中をさらに出しあって、よりよい人間としての生き方を学びとりましょう。

4、日常生活の心がまえ

1、きまりと自由

きまりを守ってこそ自由が実現出来るのです。

「制服だ、バッチだ、黙考だ、休み時間の過ごし方にまで規則づくめで、どうもきゅうくつで仕方がない。もっとのびのびと自由な生活が楽しみたいものだ。」こんな言葉を時々耳にしたり自分でふと考えてみたりすることがあります。そんな時、ふと「きまりはなぜ必要か」と考えてみると「集団生活をするために」という答えを思いつくでしょうが、たゞそれだけでは本当にきまりの必要なわけが十分わかったとはいえないようです。

では、きまりが集団生活の中でなぜ必要かについてもう少し考えてみましょう。

私たちは「実力のある民主的な実践人になる」ことを協同の目標として自分を高めながら協力しあって集団の成長を願って毎日の学校生活を送っているのです。

たしかな学力と、豊かな人間性と、たくましい心身をもった人になろうとしているのです。ですから、そうした願いにあったような日常生活を送ることが本当の自由であり、学校で生活している以上だれもがこの自由をうばわれたくないと願うわけです。

ちこくをしてきて、授業中にごそごそと教室に入る人があれば、勉強しようとする自由がその人によってうばわれたことになるのです。

このように、目標に向ってたえず自分を作りかえていく自由はおかされたくないし、だから他人の自由をうばってはいけないのです。ここに本当の規則の意味があり、規則こそは自分の自由を守ってくれるものなのです。

自由の裏にある責任・権利の裏付けとなる義務を忘れてやりたいほうだいのことをして、他人の自由を平気でおかしている人は、集団生活の中できびしくとりしまられなくてはならないのも自分の自由を大切にすることからこそ当然なことであるわけです。

2、きまりについての心がまえ

1でのべたように考えると規則は自分の自由を守るためのものであり、見方をかえていえば、「実力のある民主的な実践人」として身につかなくてはならない一つ一つの具体的な生活のしかただとも言えるでしょう。

従って、規則(めあて)を身につけていくためには、たえず次のような心がまえを持つことが大切です。

(1) 自分にきびしく、たえず自己訓練をつみあげること。

「今は何をどうする時か」すべての行動に対してははっきりとした「めあて」をもち、その

(. . .)

「めあて」を達成するためには自分としてはどう行動しなくてはならないかを考える習慣をつけ、「このぐらいのことはまあいいさ。」というように自分をあまやかさないことが何よりも大切なことです。たとえば、自分ひとりが廊下を走りさえしなければ、自分ひとりが自分の口を閉じさえすれば、廊下を走る人はなくなり、屋体へ入った時にむだ口をいう人は一人もなくなるはずで

人間ですから忘れることはあるのですが、気付いたらすぐその場で反省し、お互いに注意しあい正しい行動に移れるような本当の勇気を作りあげていきましょう。

(2) 他人の忠告をすなおに受け入れる心の広さを育てること。

注意されたり叱られたりした時、気もちよくそれを受け入れ、わたしを成長させるために、いやな注意をしてくれた友だちに対して感謝の気もちもてる人は本当に心の大きな、そして勇気のある人です。

よく「弱い犬ほどよくほえる」といいます。人に注意されて、何だかんだとへりくつをこねまわす人はだんだん人から信用されなくなって友だちを失い、手を取りあって伸びていけなくなる人です。

(3) 他人の反則には相手の立場を考えながら忠告すること。

人の注意をすなおに受け入れられる人は反対に親切に注意してやれる人です。しかし、相手をにくんだり、相手の立場を考えなかったり、自分だけえらくみせようという気持ちがあつては注意された相手もきつとすなおに受け入れてくれません。

時にはないしょにそっと、時には班日誌で、又時には生活バズや学活でおたがいに手を取りあつて生活をよりよく作りかえていくために、「私もこうするから、あなたもこうしよう」という気もちをこめて注意しあいましょう。学級だけの問題でない時は学年集会や生徒会や時には先生の手もかりて、相手が上級生だからとか自分より力が強いからというような条件に負けないように注意しあいたいものです。それが本当の自分の自由を守ることで

(4) きまりがどうも適当でないときは、どんどん作りかえるはたらきかけをすること。

できあがった規則は、決してそれが最高のものであるとは限りません。時代と共に人間の生活が高まっていく以上規則も高まっていかねばなりません。

都合の悪いことは学級なり学年なり生徒会なり先生なりへえんりよなくどんどん申し出て、より自分たちの自由が守れるように作りかえていきましょう。そして作ったり作りかえた規則はやはり集団を高めあうものとして尊重しあい守りあいましょう。

3、日常生活をより高めるためのきまり

(1) 生命の安全を守るために

交通戦争というような恐ろしい言葉が平気で使われる時代です。特に登下校にあたっては交通道徳を十分に守りましょう。なお、事故防止のため自転車通学を禁止しています。

1、きめられた通学道路の右側を2列以下でさっさと歩こう。 2、横断歩道や踏切では左右の安全を確かめよう。 3、交通腕章は必ずつけよう。 4、横断歩道で待ってくれた車の運転手には、ありがとうとあいさつしよう。 5、校内でも廊下や土間は走らずだまって右側通行しよう。	メモ
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----

(2) 他人にめいわくをかけないために

ちょっとした不注意がよくその教室での勉強のじゃまになることなどがよくあります。自分と相手の立場を入れかえて考えてみればよくわかることですが、校内では特に次のことを守りましょう。

6、室内や廊下・土間・教室の近くの庭はとびまわる場所ではありません。 走ったり大声で話したりしないようにしましょう。 7、ごみや紙くずは必ずくず箱へ捨てよう。 8、人の品物を無断で使ったりせず、掛けてあるものを落としたりしたらすぐ拾ってもと通りにしよう。 9、「すみません」「ごめんなさい」と謙虚におわびを言おう。	メモ
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----

(3) 公共物を長く有効に使うために。

校舎はもとよりチョーク一本まで仲間の物はどうしても自分のものよりだくきにしがちです。自分のものは自分一人が使うだけですが、仲間のものはどれだけ多くの人に役立ってくれるかわかりません。自分のもの以上にじょうずに使うくふうをしましょう。

10、それぞれ使うきまりに従って正しく使い、届け出たり許可を受けるべき	メモ
-------------------------------------	----

<p>ものはその手続きをはっきりとし、使い終わったらすぐもとの所へもどすと共に許可を受けた物などは係の人にお礼を言って返したことを確認してもらおう。</p> <p>1 1、目的にあった使い方をし、むちゃな使い方をしないようにしましょう。</p> <p>1 2、あやまってこわしたり、なくしたりした場合はすぐ係に届け、べんしょうなり、補充するなりははっきりと処置をしよう。</p>	メモ
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----

(4) 仲間意識をもちあげ暖かい人間関係を育てるために。

人の立場を理解し、おたがいに認めあい尊敬しあえるのは他の動物にない人間だけの美しい行いです。全校の仲間たちと手を取りあってお互いをみがきあおうとする心がまえを作るために次のような生活をするようにつとめよう。

<p>1 3、友だち同志、朝・晩の「おはよう」「きょうなら」のあいさつを、「きょうもがんばろう」「またあすも元気にね」のように心をこめてかわそう。</p> <p>1 4、その場その場に適した言葉使いをしよう。</p> <p>学習時間と遊び時間で言葉がちがうのは当然のことですが、たとえ遊び時間でも相手をきずつけるようなあだな名や、呼びすてや、「バカよばわり」などは決してしないようにしましょう。</p> <p>1 5、先生はもとより学校への乗客に出あった時は軽くえしゃくして歓迎しよう。</p> <p>1 6、人の話を横からうばったり、話し合いの中へむちゃにわりこんだりしないようにしましょう。</p> <p>1 7、「ありがとう」「ごくろうさん」とお礼の言える人になろう。</p>	メモ
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----

(5) 集団生活がスムーズに送れるために。

自動車やバスは個人の都合で時間をかえてはくれません。集団生活である以上自分に多少の都合の悪いことがあっても、特に時間をきちんと守ることが大切です。

<p>1 8、7時半以前には登校しない。校旗・市旗の掲揚では、掲揚塔の方を向い</p>	メモ
---------------------------------------------	----

<p>て直立して旗に注目し、掲揚後期の活動を終り後片付けをして教室へ入ろう。</p> <p>19、校旗・市旗降納ですべての活動を終り、後始末をしっかりと下校しよう。</p> <p>20、そろって提出するもの(作品・集金など)は注意深く忘れないようにし期日までにきちんと出して係にめいわくをかけないようにしよう。</p>	メモ
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----

(6) 個人としての生活が、中学生らしくあるために。

清潔な身だしなみこそは中学生としての特徴であり、若さの誇りです。だらけた服装はだらけた心や態度を、はでな服装は無駄使いの多い心や態度を生みだすもとです。きりっと引きしまった身なりからこそ、引きしまった、まじめな心掛けや生活態度は生まれて来ます。

「目は心の鏡」であると同時に、「服装は心掛けの窓」であり態度を生み育てるもとになる大切なものです。

<p>21、制服・制帽を正しく着用しよう。破れたら補修し、よごれたら洗濯し、いつもさっぱりとした身なりで登校しよう。</p> <p>22、室内で使用する上ばきは、学年色のついたものを使用し、よく見えるところに大きく名前を記入しておこう。使用するはきものは原則として上下各1足とし、使わないときは下駄箱にきちんと整頓しておさめておこう。</p> <p>23、自分の持ち物には、はっきりと名前をつけ、えんぴつ一本、けしごむ半分でも無駄にせず、大切に使う。自分のお金で買った自分の品物であっても大切な人類の財産です。</p> <p>24、きめられた持ち物(生徒手帳等)や、身につける物(名札・えり章・学級章等)は、忘れないよういつも注意しよう。特に名札や学級章は自分自身への誇りと責任をあらわす大切なしるしです。</p> <p>25、不必要な遊び道具や、中学生らしくないぜいたくな持ち物を持って来ないようにしよう。</p> <p>26、お金は一切学校へ持って来ないきまりです。</p> <p>急な場合の電話は事務の先生にお願いし、使用後は電話使用簿に氏名を記入しておこう。</p>	メモ
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----

3 学級作り

1、学級作りのねらい

学年には幾つかの学級があります。

始めはひとりひとりの成績や行動、家庭事情などを勘案して、どの学級も大体同じレベルで構成されます。学年の数名の先生方が教科の指導を分担しあう中で、それぞれの学級の担任になります。学級も学年も学校教育を進めるための大切な基礎になる単位です。従って前に書いた学校の目標をめざしながら、それぞれの学年・学級に適した教育が進められます。

その1 めあて作り

1、学級は目的のないただの生徒の集団であってはなりません。

先生から見れば、皆さんを将来教育目標にあったような民主的な実践力のある日本国民として育てたいと云う願いを持って組織された集団であり、生徒から見れば学習や生活や健康の面に於ける色々な活動を通してそれぞれ将来役に立つ幸福な日本国民として成長するよう共通の目的をもってできた集団です。

たゞ何となく学校へ来て、無自覚に一日を過ごし、又家に帰るだけの集団であったら、学級とは言えません。烏合の衆と言うべきでしょう。

2、私たちは先生のすぐれた教育に対する考え方と愛情に教えられながら、私たち学級のみんなの願いを結集して、学級のビジョン（理想像）をまとめ上げ朝・昼・晩・MM・学習・遊び・給食・バズ・道徳・学活・清掃・大徳などのすべての場を通してみんなでその実現にはげみあうような自覚のある学級を作り上げたいものです。

3、学級は初めからうまく行くものではありません。学級（学年）担任の先生方のすぐれた指導力・深い情熱・努力にさゝえられながら、よりよい学級を作り上げるために一人一人が自ら努力し、全員が協力し、連帯して学級生活の一日一日を見なおし、問題を一つ一つ解決して学級の目標を実現させて行きたいものです。

(学級目標)

- 1、あなたは学級目標がいつでもどこでもはっきり言えますか。そしてその実現に努力していますか。
- 2、学級活動の年間計画ははっきり出来ていますか。
仕事(授業・自習・バズ・学活・清掃・部活動など)には真剣に、遊びの時間、移動の時間にはリラックスする……。
この区別をハッキリ自覚していますか。
- 3、一時間一時間の教科や清掃・日直・大徳の時間・学級会活動などのめあてをはっきりつかんで、それに向かって努力していますか。
一日の生活設計を立て、それをきちんと守っていますか。
MMでは一日のめあてをみんなの意見できめ、生活バズできびしく反省していますか。

メモ

その2 自分作り

学級は一人一人を民主的な実践人として育てる一番大切な場です。

- 1、私たちは生れつき何かすばらしい可能性を持っているものです。一人一人がまずこの可能性を信ずることから自分作りが始まります。「今は出来なくても、やっているうちには必ず出来るようになる」と言う信念をもって何事にも真剣にとり組む根性を持つことが第一です。
たゞ、みんなの中に仲間入りして傍観しているだけではだめです。
- 2、自分で何事に対してもはっきりした「めあて」とそれに対する意見を持ち、積極的に取りくむようにしたいものです。仕事や勉強の苦痛から逃げるような意気地のないことではいけません。
「あの子がやらないから」と程度の低い生徒に基準をおいて言いわけをしていては、自分の可能性は磨かれません。「あの子がやるから僕もやれる」と、むしろ高いところに基準をおいてがんばるのがファイトと云うものです。

- 3、先生の言いつけや仲間できめたことに対してはすなおに実行につとめることが大切です。むやみに言いわけをして逃げたり、人に責任をなすりつけるような態度や、見えや虚勢をはってその場をごまかすような卑怯な態度、反対のための反対など、みな自分作りの敵です。
- 4、失敗は誰にでもあります。失敗にひるんで、しりごみしてはいけません。謙虚に自ら反省し人の忠告に耳をかたむけて、心をとりのおしてやりなおすところから自分を作りかえることが出来ます。

学級では先生をはじめみんながお互に一人一人を見つめ、その努力を認めあい、失敗は暖かく励まし成功はみんなで喜び合うようにしたいものです。よいもの、正しいものが尊重されるような学級を作り上げましょう。

- 1、あなたは、授業や活動に遅刻をするようなことはありませんか。
- 2、欠席する時は予め届け出ますか。
- 3、学用品などを忘れることはありませんか。
- 4、あいさつやえしゃくは誰にでも気持ちよく出来ますか。
- 5、先生に呼ばれたら「ハイ」と返事が出来ますか。
- 6、いわれのないことで人から恥かしめられたり、馬鹿よぼわりされたら怒りますか。
- 7、自分の責任を人にかずけることはありませんか。
- 8、人前で、「私に言わせて下さい」「僕にやらせて下さい」と進んで発言出来ますか。
- 9、自分で計画した、或は学級できめた家庭学習（予習・復習）はきちんと出来ますか。

メモ

その3 仲間作り

- 1、学級はみんなで作りあげる大ぜいの集団です。
お互に知りあい、わかりあう中で仲間意識を育て、相互が信頼に結ばれて、何でも気楽に話しあえる雰囲気を作り上げることが大切です。
- 2、学級は先生の教育に対する考えと愛情に支えられながら、お互に信頼しあい、協同の目標の実現をめざして助け合い、みがき合っていくようみんなが心を合せて盛り上げるようにしなけ

ればなりません。たゞ、お互にあやまかしあうようななまぬるいものであってはなりません。わがまゝものの集りでは学級とはいえません。修業の道場のようなお互に磨き合うきびしさのあるものでなければなりません。

3、学級の人間関係を高めたり、学級をよくしようとして、意見が対立するのは当然のことです。お互に相手の立場・学級の立場に立って謙虚に話しあって行く中で、よりよい方向を見つけ、皆で助けあって改善につとめましょう。

4、学級は組織体です。一人一人ばらばらであってはなりません。

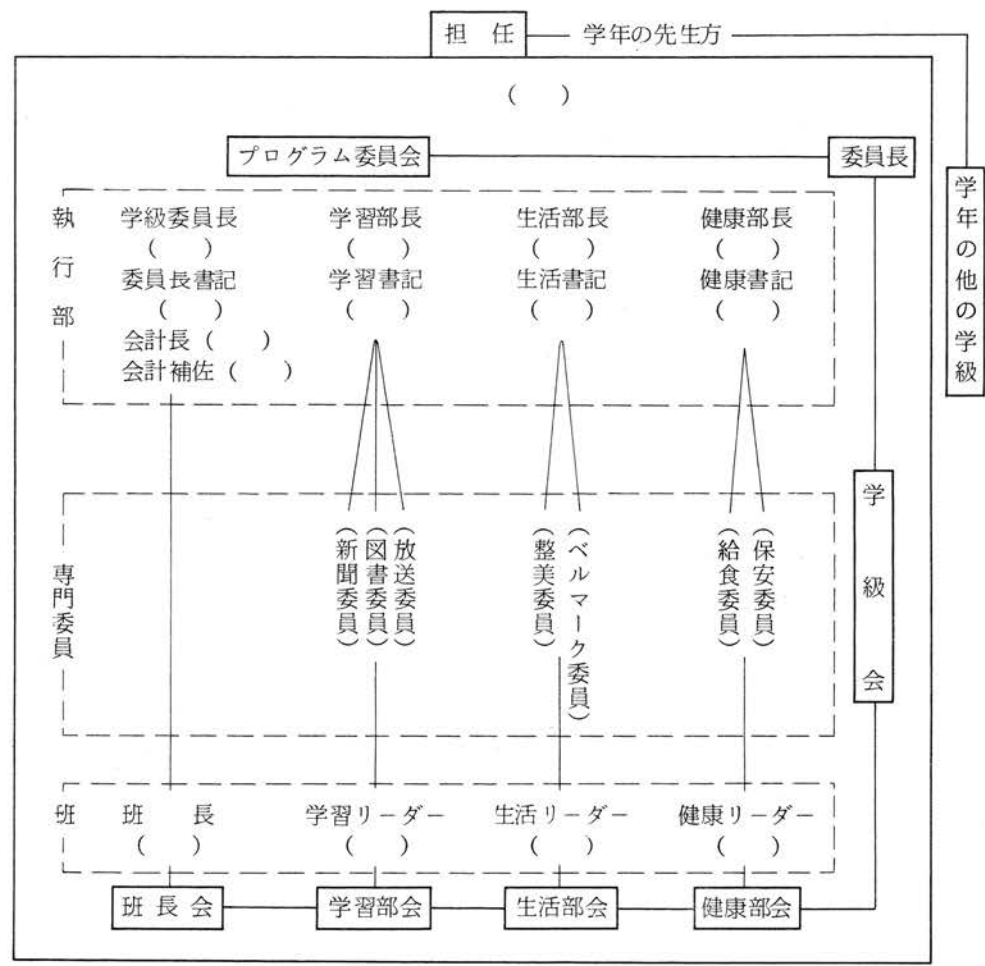
学級委員や班長（リーダー）があり、幾つかの班からなり立っています。学級委員や班長は学級の約束に従って、皆のものをまとめて規律のある活動が出来るように責任をもって指示しなければなりません。又、メンバーは仲間意識に立ってこの指示に協力して規律のある活動をしなければなりません。

このようにして、お互いが一つ一つの仕事に向って助けあい、みがきあう中で学級自体が高まって行くと同時に、一人一人の自由（わがまゝではない）が守られて行くようにしたいものです。

- 1、受持ちの先生を尊敬し、その教えをすなおにきゝますか。
- 2、役員・学級委員・班長・係・日直は自分の責任を自覚し、進んでみんなのために働いていますか。
- 3、先生がいなくても規律正しい効果的な自習やバズが出来ますか。
- 4、人を馬鹿にするような言動をする者はいませんか。
- 5、人の成功をみんなで喜びあい、それを見ならうようにしていますか。
○人の失敗はなぐさめ、励まして、いやしくも嘲笑するようなことはしないようにしますか。
- 6、「ごめん」とおわびや、「ありがとう」とお礼が言えますか。
- 7、仕事が終わったら「ごくろうさんでした」とお互の労をねぎらいますか。
- 8、班日誌を書き合う中で、お互に励ましあい、忠告しあって、いっしょに伸びるように努力していますか。
- 9、教室をいつも清潔にし、掲示物や板書などの運営は責任をもって行っていますか。
- 10、プログラム委員会や班長会は毎週持っていますか。

メモ

2、学級の組織



3、班

班は学級の基本単位で男女2名ずつで構成します。班長を中心にして人間としてお互いにみがきあう一番身近な組織です。

- ① まずお互いの家庭や個性や人柄・能力・将来の進路などについて話し合い、知りあうことが大切です。
- ② 作品やノート・テストなどを遠慮なく見せあう中でお互いが親身になって話し合い、お互いの問題を解決しあうようにチームワークを作りあげましょう。
- ③ 暖かい中にもみんなの目標をめざしてきびしく批判し、協力して前進するように助けあうようにしましょう。 グループ日誌の活用

4、学級でのいろいろな活動

(A) 学級では毎日次のような活動をします。

① **登校** 一日の出発、希望をもって学校へ

<ol style="list-style-type: none"> 1、学用品・持ち物を確認してから「行って参ります」と家を出よう。 2、先生や知っている人、友だち(すべての上下級生・男女)先輩にあたら挨拶をかわそう。 3、多人数が横に並んで歩くのは危険、きめられた登校道路を右側通行し二列以下で急ごう。 4、遅刻をしないようにし、欠席の場合は届けよう。7:30より早く登校しないようにする。 5、きめられた登校道路を交通規則を守って登校しよう。 6、校門に入る時には、気持ちをひきしめよう。 7、教室に入ったら運動服に着がえよう。 8、教室の中では静かに家庭学習の結果のたしかめあいをしたり、それぞれ一日の準備をしよう。 	メモ
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----

② **日直**

本校で考えている日直の性格は、「奉仕」と「点検」をあわせもっているということです。学校の中が学習しやすい環境を保てるように、掃除したり、整備したりする……。 「奉仕」と学級全員が毎日の学校生活を楽しく規律あるものとするため、仲間同志が協力しながら、学習・生活・健康のすべての面でしっかりとしためあてをもち、自分づくり・仲間づくりがうまくできたかどうかを調べる。「点検」があるのです。うまくできた人、班の発表は勿論のことうまくできなかった人、班については具体的に生活バズの中でとりあげ発表し、改善するように考えさせていくのが日直のつとめなのです。

流 れ	リ ー ダ ー	メ ン バ ー	メ モ
登 校	窓あけ・黒板・先生の机・床 はき・戸棚の整理・花びんの 水かえ・カーテン等の仕事の 分担をしよう。	始業20分前(8:00)ま でに教室にもどる。 リーダーの指示に従って心を こめて奉仕しよう。	
点検活動	すべてのことによく気をくば るように班員と相談しよう。	学習・生活・健康の係ごとに その分野の実践目標が守られ ているか調べよう。清掃・係 活動・掲示物などにも注意し よう。	
日誌の記入	生活バズで報告できるようメ モをしておこう。		
帰りの整理 と整頓	班バズできびしく点検しよう。	班バズできびしく点検しよう。 机列・戸棚・黒板・戸じまり 等に気をつけてから「ごくろ うさんでした」と挨拶。	

③ M・M(朝の会)

学校生活のスタートにあたって、学級のみんが心を暖かく結びあい、きょう1日の生活が無駄なく充実したものであるようにしっかりした心がまえを作らしましょう。

特に教科担任制の中学校では、学級全員が受持ちの先生と親しく接する数少ない機会です。わずか10分間という短い時間ですが、私たちが学級の先生との話しあいを通して、「さあ手をとりあってきょうもがんばろう」とファイトを燃えたくせるように努めましょう。

活動方法 (例)

学級の特徴を生かして、いろいろな工夫をこらして下さい。

流 れ	内 容	メ モ
挨拶	先生を含めた学級全員の朝の出合い。いよいよ学校生活のスタートです。	
朝の歌	明るくなごやかな雰囲気でのびのびと歌おう。	
出欠調査	欠席者の隣りの人が報告しよう。保安委員は出欠表に記入しよう。(欠席届は必ず出そう。遅刻したときはその記由を先生に告げよう。)	
日報を読む	日報をよく聞き、その内容を知り、1日の生活がスムーズにおくれるようにしよう。	
めあて作り	きょう一日の生活をみがくために、みんなで約束をきめよう。(今日の目あて) みんなで決めた約束はみんなが必ず守りぬこう。(わがままや忘れた時は必ず生活バズの中で謙虚にみんなにあやまって反省しよう。)	
連絡	きょう一日のことで係から連絡があったら手ぎわよくしよう。	
先生の話	学級内のかくれた美談、きょうの学校のしつけに対する心構え、特別な予定などの話をきこう。	

④ **学 習** (P 5 3) を見よう。

⑤ **道徳の時間** (P 6) を見よう。

⑥ **自習の時間** 自分(たち)の力だけで効果のある学習を進める機会

その学級がよいかわるいかは先生のいない自習の時間を一目見ればわかるものです。学級作りが不十分である学級では、自分たちの手で効果のある学習がまじめに秩序よく出来ないものです。

① 何を学習するのか目あてがはっきりしていない。

学習部長や教科係は先生との連絡を十分にする。

みんなと相談して学習する内容やめあてを学級の全員にわかるように指示するようにしましょう。

(学級作りの程度の低い学級では、プリントを配布してテストをするのも一つの方法です。)

② 一人一人がふまじめである。学習に対する熱意がない。

班長がふまじめな者に対しては注意し、きかないときは後日、先生に教育指導をお願いします。

③ 班や学級全体がまとまっていない。

役員は責任をもってリードし、それにみんなが協力するようにしましょう。

⑦ 休み時間

	リ　ー　ダ　ー	メ　ン　バ　ー	メ　モ
十 分 ・ 十 分 休 み	〔日直〕 黒板ふき・チョークの整理など 〔前時の教科班〕 実験用具・掲示物・掛図などの整理 〔次時の教科班〕 用具・掲示物・掛図などの準備、 発表診断学習の計画をたてよう。 〔予習的課題〕 予習的課題の板書・明示 渡り廊下や中庭で運動をしない。	前時の学習のあと片付けをしよう。 次時の学習の準備をしよう。 教室を移動する場合には次時 室へ移動しよう。 自分のまわりの紙くずなどを拾い 机列をととのえておこう。 教室や廊下でどなったり、走り廻 らないよう静かにしよう。 先生や来客にあったら気持ちよく えしゃくを交わそう。 気楽に休み時間を楽しもう。 昼休みは運動場に出て元気に遊ば う。	

⑧ 給食

- ・ 日常生活の食事について、正しい理解と望ましい習慣をつけよう。
- ・ 学校生活を豊かにし、明るい社交性を養おう。
- ・ 健康の増進をはかろう。

	リ　　ー　　ダ　　ー	メ　ン　バ　ー	メ　モ
昼 休 み	○この時間を活用して学級作業をしよう。 ○生徒会役員は会議に参加しよう。	○係は掲示したり板書したり係活動 をしよう。 ○図書の借り出し、返却をしよう。 ○日直は教室内で活動しよう。 ○室内では静かにしよう。 ○校外へ出る時は担任の許可を得て からにしよう。	

	活動方法	当　　番	当番以外の者
給 食 準 備	・教室環境を整備 しよう。 ・衛生に気をつけ よう。 ・能率的、衛生的 に配膳しよう。	・窓をきちんと開けて換気 にとめよう。 ・先生の机、配膳台の上を きれいにふこう。 ・手早く身じたくを整えよう。 (エプロン・三角布・マスク) ・手洗いをていねいにしよう。 ・仕事の分担に従い運搬を早 くしよう。 ・配膳台の利用を考えよう。 ・配分するおかずの分量を考 えて手早くくばろう。	・グループ毎に机を並べかえ ナフキンを用意しよう。 ・時には花などで楽しい雰 囲気をつくってみよう。 ・手洗いをていねいに早くし よう。 ・早く着席しよう。 ・配膳読書を心がけよう。

食 事 中	<ul style="list-style-type: none"> ・ 食事の挨拶をしよう。 ・ みんなそろって食事をしよう。 ・ 正しい食事作法を身につけよう。 ・ 偏食しないように心がけよう。 	<p>「全員そろっていただきます」とあいさつしよう。 (給食委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 楽しく食べよう。 ・ 連絡放送の時は静かにきこう。 ・ すききらいをいわないように全部食べよう。 ・ 栄養について正しい理解をしよう。(身体の発育と健康の増進にどのように役だつか理解しよう。)
食 後	<ul style="list-style-type: none"> ・ 食後の挨拶をしよう。 ・ 後片づけをしよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「いただきました」とあいさつしよう。 ・ 牛乳は残さず飲み、パックはつぶして袋につめて返そう。 ・ ジャムの袋などは必ずごみ袋へ。 ・ 果物の皮、残飯は区別してしまつしよう。 ・ 器具は大食缶の中に入れて返そう。 ・ 給食当番は、食缶等を能率よく手早くリフト前へ運ぼう。

⑨ 清掃

学校は私たちが心をみがき、体をきたえ、頭をねる道場です。校舎や運動場に生命はないように考えられますが、愛情をもってはき・ふき・みがくことによってそれらに生命を与えることができるのです。そしてその中から無限の教を学びとることができるのです。きれいな環境を作ること、自らの心を美しくみがきあげていくことに他ならないのです。

みんなで下記のことには注意し合って、引きしまった心で私たちの学校がきれいな所に作りかえていきましょう。

- ・ 手ぬぐいを頭にかぶる。
- ・ 全員で机をつる。
- ・ 清掃中は分担計画にもとづき黙々とおこなう。
- ・ 時間一杯手足を働かせ精を出す。

(活動方法)

リ　ー　ダ　ー	メ　ン　バ　ー	メ　モ
<p>○遊ぶ人がいないように進んで頑張ろう。</p> <p>○分担、欠けた人の分の割りふり、道具の確認</p> <p>○精を出すよう心掛け呼びかけたり、時間にロスはないか気をくばる。</p> <p>○手つかず箇所のないようてきぱきと指示する。</p> <p>○できばえ、道具の員数、いたみ具合を点検</p> <p>○バズ司会</p> <p>○「これで終わります」解散</p>	<p>○昼休みが終わったら音楽で集合する。</p> <p>○分担作業の計画にもとづき清掃を開始する。</p> <p>○分担した所を万遍なくみがき上げたり、汚れのない状態にしよう。 落ちにくい汚れ — 洗剤 もえる物 ——— ゴミ焼却 金 物 ——— 金物置場 土など</p> <p>○道具は必ず元の位置へきちんとおく。</p> <p>○反省バズと明日の重点分担の確認</p> <p>○「ごくろうさんでした」</p>	

⑩ 黙考・黙書

- 1、静かに一日を振りかえり反省しよう。
- 2、その結果を三作りノートに記入し、明日の予定をたてよう。

⑪ 生健バズ

最初に、今日の反省を行い、つぎに三作りノート反省欄を中心に、学習・生活・健康の面で「めあて」に従って、自分づくり・仲間づくりがうまくできたかどうか三部長が中心になって1日の反省をしましょう。この反省と計画がきょうより明日の生活が合理的で有意義に生きるかとなる。また、学習・生活・健康各面のことを班内や学級全体の場の中で自由に話し合うことが学級生活をより合理的にし、明るく、規律正しい学級を作り上げる力となります。自由に話し合うといっても1人のことをみんなで、みんなのことを1人1人が暖かい思いやりで真剣に考えあうことが必要で

す。

活動の方法 (例)

流 れ	リ ー ダ ー	メ ン バ ー	メ モ
○開会のことば	○生活部長は前に出て机列をバズ体形にして生バズ開始を宣言する。	○生活リーダーを中心にすみやかに体形をかえる。	
○班バズ	○生活リーダーは班の司会をかね、自分たちの班をよくするという共通の願いの上に立って話し合いをすすめよう。	○きょうのめあてが守れたか。反省項目についてはどうかを互いにきびしく点検しあい、集計しよう。	
○全体バズ開始	○日直は前に出てみんなを注目させよう。	○グループ内で出た問題の中でクラス全体に関係したものをだしクラスの向上をめざして討議しよう。	
○点検項目についての反省	○専門部委員や三部長は生活の中からの反省、点検結果を発表し、話題をなげかける。	○連絡の中でわからないことがあれば質問し、重要なことはしっかりメモしておこう。	
○役員からの連絡	○それぞれの会合での決定事項、その他連絡したいことを発表しよう。		
○日直からの点検	○日直として気づいたことを発表しよう。	○日直としての勤めが充分でなかったら、理由をただそう。	
○日直への逆点検	○日直としてのつとめをしっかりと果たしたか反省しながら意見を聞こう。		
○閉会宣言	○日直は閉会を宣言する。		

(. . .)

閉会宣言	○司会者は閉会宣言をしよ う。	○起立し、挨拶をかわそう。
------	--------------------	---------------

※ グループ日誌を順番にしたがって、次の人に渡そう。

⑫ 下 校

- ① 下校準備をはやくしよう。忘れ物（特に雨傘など）をしないようにしよう。
- ② 教室の戸締りに注意しよう。
- ③ 下校時間を厳守しよう。
- ④ 道草をしたり、買い食いをしないように急いで帰ろう。
(その他登校時の心掛けに同じ)

(B) その他学級には次のような特別な活動があります。

(1) プログラム委員会(班長会)

学級作りは、先生の指導助言をうけながら、自分たちの学級の人間関係をよりよく改善したり日々の学級の生活が向上するよう、一人一人が愉快にしかも真剣に生活出来るように、生徒自身の頭で、手足で、相談したり活動したりすることです。学級作りをすすめて行く上で「学級会活動」は欠かすことの出来ないものです。学級会活動を生徒の手で進めて行くためには、年間計画やそれをもとに生徒の協力によって作られる一時間毎の活動プログラムがなければなりません。このプログラムを作るのがプログラム委員会です。普通執行部と班長によって構成されますが、専門委員を加えたり、学級全員で開いたりすることもあります。

学級会活動の内容は次のような三つの分野になっているので、それぞれの分野についてプログラム作りの原案提案者をきめておいた方がよいでしょう。

- 1、学級生活の諸問題 2、学級内の仕事分担 3、楽しく豊かな学級生活

(. . .)

- ◎ プログラム委員会(班長会)は毎週1回は行います。(昼休み・金曜日朝など)
- ◎ 出来上がったプログラムを学級全員に発表して、それぞれ事前研究に入るようにしましょう。

この会の司会は議長(委員長)がつとめます。

活動方法 (例)

書記は板書係をつとめます。

<p>① 定刻 開会挨拶</p> <p>② 前時活動の反省をする。</p> <p>③ 来週の学活テーマを提案する。</p> <p>④ 提案者は、そのテーマについて提案理由とどんな順序で活動するか。</p> <p>プログラム原案を提案して相談してきめる。</p> <p>⑤ 発表や活動のための役割りや準備することを決める。</p> <p>⑥ 確認しあう。</p> <p>⑦ 来々週のテーマを相談してきめる。</p>	<p>○コの字形に机列を作る。 (年間計画を掲示する) 「学級記録」に記入する。</p> <p>○予算が必要な場合は会計と相談する。</p> <p>○役割りは班にふり当てる。 (班長は後日班員と相談して、当日の準備をする。)</p> <p>○年間計画とにらみ合せて来々週のテーマと原案提案者(提案者は先生と生徒と相談して後日原案作りをする)をきめる。</p>	<p>メモ</p>
<p>(この後班長会をひらく)</p> <p>⑧ 学級の問題点について班長同志で話しあう。</p> <p>⑨ 先生のお話をきこう。</p> <p>⑩ 書記はプログラムを「学活記録」に記入する。</p> <p>⑪ 閉会挨拶</p>	<p>○学級(班)作りについて問題点・努力点を話しあう。</p> <p>○各学級共学活記録を持とう。</p>	

(2) 学級会活動

- [1] 学級会活動とは、生徒の自発的・自治的な活動のことをいいます。楽しく規律正しい学校生活を送るために、先生の指導のもとに学級の諸問題や学級生活を楽しく豊かにする問題について話し合い、解決して行く活動をいいます。これらの活動を通して学級の現状を改善して、自主・協同・創造的な生活態度を身につけていきましょう。
- [2] 学級会活動が生徒による生徒のための、生徒の活動であることからして、いつも問題をもって活動に参加しましょう。
- [3] 活動計画はプログラム委員を中心にして自分たちの手で計画をたてましょう。
- [4] 学年別に学級会活動で特に努力したいこと。

(1 年生)

- 学校・学級の組織や規則などを正しく理解し、早く学校生活になれましょう。
- 学級内の暖い人間関係の基礎づくりをしましょう。
班日誌の活用(書きあい・励ましあい)

(2 年生)

- 中堅学年としての自覚をもち、責任ある行動ができるようになりましょう。
- より楽しい学級づくりをするために組織の改善を図ったり、積極的に学級会活動に参加しましょう。
- 学級会活動での話し合いの結果や問題点などを積極的に生徒会に反映させていきましょう。

(3 年生)

- 最上級生としての責任と自覚をもち、積極的に後輩指導をしましょう。そして伝統の維持とよりよい校風づくりをしていくために創意工夫をこらしていきましょう。
- つねに全校的な立場に立って、学級の問題に気づき、集団の一員として豊かな学級生活づくりあげましょう。

- [5] (学級会活動の方法)書記は開会前にプログラムを板書する。

活 動 順 序	活 動 方 法	メ モ
<p>開会挨拶</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマやプログラムについて提案者から説明 ・司会者はプログラムに従って会を進める。 <p>質 問</p> <p>討議(研究)</p> <p>先生の助言</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・机列を工夫し(開会前に整頓しておく) ・テーマ(ねらい)を皆ではっきりつかんで活動に参加する。 ・発表者は予め作った提示資料によって説明する方がよい。 ・わからない点は進んで質問しよう。 ・必要に応じて討議の中へバズ形式をとり入れる。 ・発表は皆によくわかるように大きな声で皆の方を向いて、語尾まではっきり言う。 ・発言は結論を先に、そして必ずその根拠や理由を述べよう。 ・少数意見にも十分耳をかして考えよう。 ・書記は結論をまとめて「学活記録」に記入しよう。 ・全員で確認しあう。 ・よくきいて今後学活改善の参考にしよう。 ・机列をもとになおす。 ・学活に使った資料は綴じ込みに残そう。 	

(3) 教育相談

皆さんの年頃は心身共に急激に成長する不安定な時間です。そのことから色々な悩みが起るのは当然です。それをいいかげんにごまかさず、一つ一つ解決して自分を作り上げて行かねばなりません。自主解決が望ましいことですが、皆さんはまだ経験も浅く、思慮も十分に深まっていません。相談相手が必要です。こんな時、皆さんを援助して下さるのが生徒指導の先生方や担任の先生方です。先生方を信頼して、勉強や健康や生活・進路の悩みなどについて、昼の時間を利用して相談にのっていただくようにしたいものです。

相談の内容については、秘密を守ります。遠慮せず申出るようにしましょう。

(4) 係活動

○学級生活が向上し、一人一人の学級における生活を豊かなものにして行くためには、自分たちの手で色々な仕事をしなければなりません。

◎ 毎日行なうもの

明日の学習予定黒板などの書きかえ	教科班	(休み時間)
学級日誌を書く	日直	(ひる休みなど)
背面掲示黒板を書きかえる	係	(ひる休み)
班日誌を書く	グループ輪番	(家庭で)
教室の整備整頓をする	日直	(休み時間)

◎ 時々行うもの

(例)	ガラス補修・カーテン補修	係	(清掃時間)
	学習資料作り	教科班	(ひる休み・土曜)
	壁新聞作り	係	(" ")
	花畑手入れ	係	(清掃時間)
	学級会計のしごと	会計	(集金日)
	行事予定黒板の書きかえ	学級書記	(月 末)

(5) 大 徳

大徳の時間とは、昔、泉中学校の付近の荒地を、仲間と一緒に汗を流して開墾した「道関坊大徳」の名にあやかり、全員が協力して活動することによって、よりよい学校環境を作っていくことと、その活動を通して大きな徳を身につけていこうというねらいからつけられた名前です。

先生の指導助言を受けながら、自分たちで考え、相談し、手足を動かすことによって自分たちの学校・学級の間人関係をよりよく改善したり、日々の学校生活が向上できるようがんばりましょう。

大徳には、学級大徳・生徒会大徳の2つがあり、交互に行ないます。

活動内容は、次の通りです。

1	学 級 大 徳	学級会・学級作業・学年集会
2	生 徒 会 大 徳	三部会・専門委作業・一役作業・学年総合部会
3	学 級 大 徳	学級会・学級作業・学年集会
4	生 徒 会 道 徳	専門委・学年三部会・三部作業・一役作業

などを行います。

それぞれの作業・活動を能率的におこなったり、作業内容を確認するために大徳の時間の計画表が配布されます。計画表に従って委員長が作業分担して全員が下校時間まで活動します。

大徳時間の学級計画例

{ 委員長 1 三部長 3 三部書記 三作り板書 (学) }	} 3 週番欄記入 (生) 体力作り表 (健)	掲示係 (1学級) 2
		補強バズ 2
		下駄箱整美 2
		エプロン 2
		専門委 9
		<hr/> 計 35
営繕係 (担当受持場所) 4		学級プロ委
清掃計画係 4 美化係 (特別室) 2		学年プロ委

(6) 統合時間の活用例

学級指導

私たちは、協同の目標をめざして (めあて作り)、自分を生かしながら (自分作り)、集団を高めよう (仲間作り) という三作りを合言葉として、毎日いろいろな活動を行なっています。

学級全体としては、どんな点が、なぜこういう結果になった。

どの班の、誰の、どんな努力や反対に怠け心がこうした結果を生んだのかを厳しく追求していかなくては進歩や向上はありません。もちろん毎日の生健バズの中でこうした取りあげ方をしますが学級の流れの中で、じっくりと学級を見つめ直して、向上への道を探し出そうというのがこの時間のねらいです。

この時間が本当にわうちのあるものとして位置づくために少なくとも各係は次の準備をしよう。

- 学級プロ委…担任の先生と相談しながら、今月とりあげる中心的な問題と、時間配分、とりあげる順や方法を検討する。
- 執行部…自分の学級として特に問題になる点を具体的に見出す。
- 専門委員…担当分野について自分の活動の反省と、学級の問題点を見出す。
- 班長…班内の問題点を整理し、班内の三部の係と相談して、今後への対策を考える。
- 班の各係り…担当する三部の各面での一人一人の問題点と改善のための案を作っておく。

授業の流れについては担任の先生の指導によりますが、本当に自分たちの時間として役立てるよう、みんなで力一ぱい問題点の解決に努めましょう。

(7) 学級会

生徒会を本当に自分たちのものとしていくための時間で、学級ごとに独自の問題を話し合う時間ではありません。生徒会学活と呼ぶこともできる時間といえましょう。従って、話し合いの内容は大きく二つに欠けることができます。

A、生徒会の議会・部会等から全生徒の考えを聞くために出されてくる議題

B、学級だけでは解決できない問題を生徒会として解決してほしいために提出していく議案

このためには、少なくとも、次のことをしっかりやった上で学級会のプログラムを作りましょう。

Aでは、議会・部会で積極的に自分の意見を述べ、統一学活で討議しやすい形に議題として整理すると共に、事前に議題内容を学級員に知らせ、十分自分の考えを持ってその時間にのぞませる。更に、他の部員から出ていた意見なども紹介し、どこがどう問題かを具体的に仲間に伝える。

Bでは、学級プロ委や学活で出た問題などを整理して、①全校がよくなるために、こうした活動をしたらどうか。②こんなことで困っているが、全校的にこんなにしたら解決できそうだ、というように学級の考えをまとめあげて、部会や議会へ積極的に提案できるよう話し合いを深める。

(8) 点検・評価活動について

自分を知るものは自分であり、自分を高めるものは自分自身をおいて他にはありません。更に人生はよく、急流をさかのぼるボートにたとえられます。〇心不乱に漕ぎ続けてやっとわずかな前進があり、ちょっとでも漕ぐ手を休めれば、たちまちはるか下流へ押し流されてしまいます。

一心不乱に漕ぎ続ける姿を自分自身で、あるいは係の人の手で毎日毎日確かめあい、励ましあっていこうとするのが点検評価活動です。全体のしくみをよく理解し、自分で自分を高め、自分たちの力で自分たちの班・学級・学校で高めていくようにがんばりましょう。

a、自己点検

三作りノートに自分で自分を見つめた結果を〇（できた）、×（できなかった）で記入するもので、黙考の時間に静かに一日をふりかえり、黙書の時間に記入していきます。

学習部 生活部 健康部の項目に従って一日の学校生活に自己点検を加えます。

b、相互点検

三部点検

自己点検にありがちな点検のあいまいさをカバーするために他から学級としての姿を点検してもらうのが相互点検です。各学年で、週目標が守られているかどうか点検して見回ります。その結果を、学年放送機で呼びかけて、注意を促したり反省の材料にしたりします。

4 生徒会活動

学校目標 「民主的実践人」の育成 の実現のために、学校での生徒自身の生活を改善し、幸福を追求して、よい校風を作り上げるための生徒自身の手による文化創造の活動を生徒会活動と考えます。

よい校風とは、次の3点と考えます。

- 1、協同のめあてを実現しようという前向きで創造にはげむ気風
- 2、一人一人が人間として尊重されるような気風
- 3、みんなが仲間意識をもってお互いに厳しく、温かく助け合い、磨き合うような気風

この3つの気風を三作り精神（めあて作り・自分作り・仲間作り）と呼んでいます。

その1 めあて作り

一人一人が民主的実践人として自己を磨き上げるために、三部では次のような目標を掲げています。

- | | |
|-----|-------------------------------------|
| 学習部 | ┌ 主体的学習を充実させよう
└ バズ学習の効果を上げよう |
| 生活部 | ┌ お互いに人格を尊重しあおう
└ 環境を整備しよう |
| 健康部 | ┌ たくましい心身を えよう
└ 保健安全につとめ事故をなくそう |

生徒会員のすべてがこの目標を自覚し、それにもとづいためあてを持つことが大切です。

その2 自分作り

生徒会は協同の目標（上記）を追求実現するための自主的・自治的な活動です。自分たちの目で問題を見つけ、自分たちの頭を寄せ合って解決策を相談し、自分たちの手で一つ一つ解決改善して、自分たち全体が、自分たちの学校生活を高めていく行動です。生徒会活動が向上するためには、会員一人一人が強い自覚をもって、自らの行動を見つめ反省し改善することが大切です。

執行部や係の者に責任をなすりつけて、無関心であるようでは駄目です。一人一人がみんな生徒会の一員である自覚を持ちましょう。

その3 仲間作り

生徒会は全校生徒による大きな組織活動です。一人一人の生徒と、すべての生徒会活動とが心と血のかよい合う温かい、しかも厳しいつながりをもつことが望まれます。

生徒会では総合部を中心に三部会・各専門委員会を組織します。これらの組織にはすべての学級が代表を送ります。これは、各学級の中で出た一人一人の意見がすべての組織で反映されるためです。また、生徒会の各組織で決定されたことがすべての生徒に徹底されるためです。つまり学級代表は個人として各組織に参加しているのではなく、学級のすべての生徒の考えを代弁する立場であり、同様に自分が所属している生徒会組織において話し合われていること、決定したことのすべてを学級に伝え、実行するよう働きかける立場にあるのです。

こうした中から「一人がみんなのために、みんなが一人のために」活動しようとする心構えをもつことが大切です。一人一人の生徒が、各学級代表を支え、各生徒会執行部を支えていくことや、生徒会執行部や各学級代表が一人一人の意見や考えを大切に、実現化しようとしていくことが、生徒会員全員の仲間意識を高め、よりよい学校生活の実現に近付けていくことなのです。

生徒会では学年を二期に分けて役員を選び、学級組織を作ってこのようなよい気風を作り上げようという協同の目標を持ち、学校における自分たちの生活を見つめ、問題を自ら見つめ、考え合い、工夫し合い改善して、よりよい学校作りに努めてきました。

生徒総会

生徒総会は生徒会の最高決議機関です。前期・後期の始めに活動方針・予算を決定する定例総会と生徒議会が必要と認めるとき、または、会員の3分の1以上の要求があったときに開くことができます。

次に、最高決議機関という言葉の持つ意味について述べます。生徒会活動はその全構成員による自治活動です。みなさんの中には、生徒会活動は生徒会執行部が行なうもの。学習面については学習部の生徒だけが行なうもの、自分はそこで決まったことを守るだけ、と考えている人がいるかもしれません。もし、そう考えている人がいるとしたらそれは大きな間違いです。すべての生徒がすべての生徒会活動に参加しているのです。つまり、原案を出すことも、執行部案に反対して代案を出すことも案を承認することも、決定したことを行使することも、すべて可能なのです。生徒会はそうした開かれたものでなければならないのです。決して執行部を立化させてはならないのです。つまり、すべての生徒会員が納得して前期・後期の活動に取り組んで行くためにも、前期・後期の生徒会活動の最も重要なこと、最も基本的なことについては、全構成員によって決定承認されるべきなのです。

生徒総会の場合、自分自身が生徒会を動かしているんだ、ということを実感できる場でありたいと考えています。

全校集会

全校集会も生徒総会同様、生徒会の手による全校生徒の集会です。学校が当面している課題や現在の学校の様子をみんなで見つめ直し、その中からよりよい校風を作り上げるための具体的な取り組みを認識し合うため、毎月第一水曜日の生健バズ後に行なわれます。

生徒議会

生徒議会は生徒総会に次ぐ決議機関です。各学級の代表者である委員長・委員長書記・四部の代表である生徒会三部長・書記・生徒会会計長・専門委員会の代表である専門委員長と、それぞれの代表が集まり、学校生活の向上、及び、生徒会諸行事について審議・決定されます。それぞれの代表者はその組織の代表として、すべての者の意見を反映した発言をし、決定されたことは確実にそれぞれの組織の中で取り組んでいくようにしていかなければなりません。ここで、各組織とのパイプ役をしっかりと果たすことが、全生徒による生徒会を生み出していくことにつながります。

総合部会

総合部会は学級と生徒会のパイプ役です。したがって特に日常生活の問題を討議したり、学年リーダー会・学級リーダー会につながる議事を討議することが中心となります。また、議会で委任されたことについて取り組んだりします。

学習部会

学校生活の向上を学習面から取り組んでいくことがこの部会の中心的課題です。泉中学校にはバズ学習という素晴らしい財産があります。学習面のた状をつかみ、課題を知り、仲間同士力を合わせることによって自分たちの学力を向上させていくために、生徒自身の手で積極的に取り組んでいく、そのことが、学習部の第一の活動です。

次に、学校文化の創造のための取り組みが第二の活動としてあげられます。学校の中に学級の中にそして、一人一人の中に有形・無形の文化遺産がどんどん蓄積され、その集大成として秋の文化祭を成功させていくための取り組みです。

生活部会

学校生活の向上、これが生活部の中心的課題です。

それを内面から取り組むために、まず、心を育てる取り組みが必要です。挨拶運動などの取り組み泉中生徒として共に生きる仲間であることを認識し合い、互いの人格を大切に、認め合い・高め合

う取り組みなどがされています。

そして、心を豊かにする環境作り、これが外面からの取り組みです。その中でも、清掃委員を中心とした清掃・学校美化の取り組みが今最重要課題としてなされています。また、週番活動も生活部の活動の柱の一つとして加えられました。

健康部会

健康部では、スポーツを通してたくましい心身を育てよう、という目標と、保健安全につとめ事故をなくそう、という目標を掲げています。

前者は、部活動・体育的行事・全校ランニングなどを通して取り組まれています。体育的行事の中心には体育大会があります。

後者は、保健衛生面・給食・登下校の安全などの日常活動の取り組みが行なわれています。

会計長会

会計長会の仕事は大きく分けて二つあります。第一は生徒総会に向けて生徒総会に向けて生徒会予算を組み、承認された後、それを執行し、最後に決算報告をすることです。

第二の仕事は、1円募金・新聞集めです。生徒会予算は限られており、生徒会活動をより活発にするためには、予算枠以外に資金作りをする必要があるのです。そのための取り組みとして1円募金・新聞集めが行なわれているのです。これらは、毎週金曜日に集計され、集計量の多いクラスは表彰されます。

専門委員会

各委員会は各部会のもとで、具体的な日常活動について専門的な立場で取り組まれています。

放送委員会

放送というメディアは、現在の生活の中で最も大きな影響を与える文化だということができます。したがって、学校内においても、日常的により高い文化活動が望まれる場として、放送委員会が活動する必要があります。

第一に情報伝達交換活動の場として、第二に美しい音楽や素晴らしい芸術を視覚的・聴覚的に伝える中で生徒全体の情操を高める場として、番組作りが行なわれ、放送されていくことが大切です。

図書委員会

図書館は学校内における知的・文化的サロンです。図書館の中には何万もの本がみんなにページをめくられるのを待っています。誰かがその本を手にとり、扉を開いてくれれば、その本は、その人に未知の世界への旅の案内をしてくれるのです。

そんな魅力的な世界を私達にもたらししてくれる本のつまった図書館を、より多くの人に利用してもらうための広報活動、利用しやすいようにするための整理整頓・営繕活動、および図書当番活動、図書館を活かした文化的な活動などが図書委員会の活動です。

新聞委員会

生徒会が一つの行事を行なう時、その取り組みを通して、一人一人が、学級が、学年が、そして学校がどんなねらいでどんな力をつけようと願って取り組んでいるのかをはっきり認識するのと、ただ惰性で取り組むのとでは得られるものが全然違います。新聞委員会の必要性は実はここにあるのです。

意識しないでやっていることを意識させたり、やる気があまりない仲間、燃えようしない仲間を奮い立たせることだってできます。素晴らしい取り組みをしている学級を紹介することによって、あのクラスにできることならうちだって、と思わせることだってできます。また、何か校内で問題が起こったときに、それについて意識調査や投稿を募集し、全校で新聞上で討論を交わすことだってできます。

このように、新聞づくりは、集団の課題、集団の生活向上、集団の民主的な発展成長に向けて、とても大切な役割を果たすものなのです。そうした新聞発行の取り組みが学校全体の文化的な質を向上させるためにも必要なのです。

清掃委員会

学校は学力を身に付け、また人間をみがくための大切な場です。その大切な場である学校を、自分たちの力で、より美しい環境にしていくために取り組む委員会です。したがって、その活動はより美しい環境にするための活動と汚くしないための活動の二点に分かれます。

かつてこの委員会は整美委員会と称していました。それが清掃委員会と改称したのは、そのうちの後者の活動、つまり、汚したものをきれいにするための活動に重点を置くことになったからです。校舎内外を平気で汚す者が増えたことも現実ですし、汚れた状態を見ても掃除に真剣に取り組めない者が何人もいたことも現実です。そんな中から一生懸命掃除に取り組む中で、きれいにする喜びを知る。言ってみれば少しずつ心が磨かれていく者が増えてきました。そして、汚さない心が育ちはじめてきました。

清掃委員会は、心を育てる委員会です。一人一人の心の中に学校をきれいにしようとする心を育てるための委員会なのです。

保安委員会

生徒の健康保持と増進をはかり、校内衛生環境の向上、事故防止のために活動する委員会です。活動は保健室当番や諸検査のとりまとめや手伝いが中心となりますが、それだけでなく、一人一人の衛生に対する意識向上のための広報活動や呼び掛け、病気にかからない体作りのための指導、校内の危険個所の調査・注意なども大切な活動です。

給食委員会

食事は文化です。エプロン・三角布・ナフキンなどは、一人一人の衛生観念さえきちんとしていれば自然に出来るはずです。テーブルマナーがしっかり出来ない者は一般社会では軽蔑されます。こうした基本的なことを身に付け、そのうえで、偏食のない楽しい給食ができるよう取り組む活動と給食当番活動の円滑化のための工夫、それにリフト当番が給食委員会のおもな活動です。

ベルマーク委員会

生徒会会計業務の一環として生徒会活動の財政面からの手助けや学校設備の充実のためにベルマークを集めます。ベルマークは毎週金曜日に集計し、集計量の多いクラスを表彰します。分類・集計されたベルマークは、教育設備助成会に送られ、その会を通し、買い物が出るしくみとなっています。

選挙管理委員会

生徒会が正しい選挙のもとに、生徒みずからの考えで、自分の学校への願いを実現してくれると思う立候補者に投票する選挙にかんする事務的な手続き（選挙告示選挙広報の作成、公正な選挙のPR立候補者の受付、立ち会い演説会の主催・開票・当選通知の発行など）の仕事を行い、選挙日程を設定するなど、正しい民主的な選挙をここで指導していきます。

5 教 科 学 習

1、私たち人間であるからには、死ぬが死ぬまで自分の体を大切にしたいものです。それと同じ意味で、自分の知恵を死ぬまぎわまでみがき高めなければなりません。

知恵をみがくためには「学習」しなければなりません。

「学習」は本能だけにたよって生きている他の動物にはまねのできない人間の特権です。殊に今日、科学文明が日進月歩しつつある時代においては「学習」によって社会の進歩にとりのこされないようにするだけでなく、更に新しい文化を創造できるような実力を身につけ、現代社会から取り残されないように、いや、これからの社会に役立つように心掛ける必要があります。

2、中学校での学習は、これからの社会に立つための基礎作りです。就職する人も、進学する人も人間であるからには、一様に人間としての基礎作りであるこの三年間の学習にうちこんでもらいたいものです。

3、知識や技能ばかりすぐれていても、正しく深く考える力、ゆたかな情操、たくましい意志や実行力が伴わなければ、人間として決して立派とは言えません。

中学校のすべての教科には優劣はありません。どの教科もそれぞれ「人間」を正しく、ゆたかにみがきあげていくための大切な教科ばかりです。どの教科もきらいにならないよう、できるだけ努力をしてほしいものです。

4、しかし、努力した結果、できない科目があったとしてもしかたありません。そのために、自信を失ったりしてはいけません。むしろ、自分の得意な教科を見つけ、長所を見だし、それに自信を持って将来の進路を見つきたいものです。

5、また、教科の学習を通して、人生を学ぶのがほんとうの学習です。

教科には、国語には国語、数学には数学のその教科だけが持っている特別な内容があります。それを学ぶのが第一の目的です。しかし、その内容の中には、直接・間接に人間の生き方を教えてくれるものがふくまれています。それもあわせて学んでいくのが本当の学習というものです。

みなさんは、教科担任の先生から教科について学ぶでしょうが、それだけでなく、その教科にうちこむ態度や情熱・勉強のし方を学んだり、さらに進んで、その先生の人生に対する考え方・見方・人間としての生き方までを学んでほしいものです。

6、しかし、いつも先生にばかりたよってはいけません。学習は本来はみずから進んで考えて行うべきものです。学習する主体者は自分自身です。従って一番大切なことは、皆さん自身がほんとうに学習に打ちこんでいるかどうかです。学習は、山登りのようなものです。目あてがあり

それに向って登って行く途中には、ずい分苦しいこともあります。この苦しいことがなければ、「勉強遊び」であって、「学習」とは言えません。この苦しいこと、わからないことを全身全霊を打ち込んでひとつひとつ解決して身につけて行くことが楽しくなるように努力しましょう。本校で「主体的学習」について力を入れるのはこのためです。そして終生そんな学習を続けながら人生に必要な実力を身につけて生きぬくようにしましょう。

7 学習に対する大切な心構え

その1 目あて作り

- 1、学習計画を立て、見通しをもってとりくもう。
年間、学期、単元、1時間
- 2、自分でまず学習にとり組み、問題をつかみ解決にとりくもう。
予習的課題の学習
- 3、学習のめあてやなかみをねらって学習に集中しよう。
- 4、学習部長や教科班長は計画的・建設的に学級の学習の方向づけをリードしよう。

その2 自分作り

- 1、毎日あすの予習、きょうの復習を励行しよう。そして問題をもって登校しよう。
これが、よくできるようになる出発点である。
- 2、できるようになればきっと楽しくなる。
苦しいことがあっても、しんぼうして学習しているうちに習慣がつく。
だれでも苦しいときがあるはず、それをのりこえよう。
わかってくればきっと楽しくなる。自信がわいてくる。
- 3、授業中、わからないことは進んで質問したり、わかったことは発表しよう。
- 4、学習のしかたの「こつ」を早くのみこみ、自分によくあう方法を見つけよう。
学習のしかたについて先生や友だちと話しあおう。
- 5、自分の力を自分でいつも知っていて、できないところほど勉強しよう。テストのまちは
いは必ず見直そう。
- 6、ノートや作品は学習の足跡である。大切に活用しよう。

その3 仲間作り

- 1、友だち同志励まし、教え、助け合って学習しよう。

バズ学習

人に教えることは、自分の学習を深める。

友人の失敗は学級の学習を発展させるきっかけになる。

間違い発言は学習スタートとして大切にしよう。笑ってはならない。

ふだん発言しない人に発言の機会を与えよう。

- 2、わからないことをお互いにかくさないで見せ合う。

知ったかぶりをしてはいけない。正直に徹することから学習は伸びはじめる。

- 3、個々の学習の悩みはすぐ先生や友だちに相談して解決しよう。

バズ学習

学習相談



- 4、班長は司会の方法を工夫して、班のバズをリードしよう。

メンバーはこれによく協力して学習効果を上げよう。

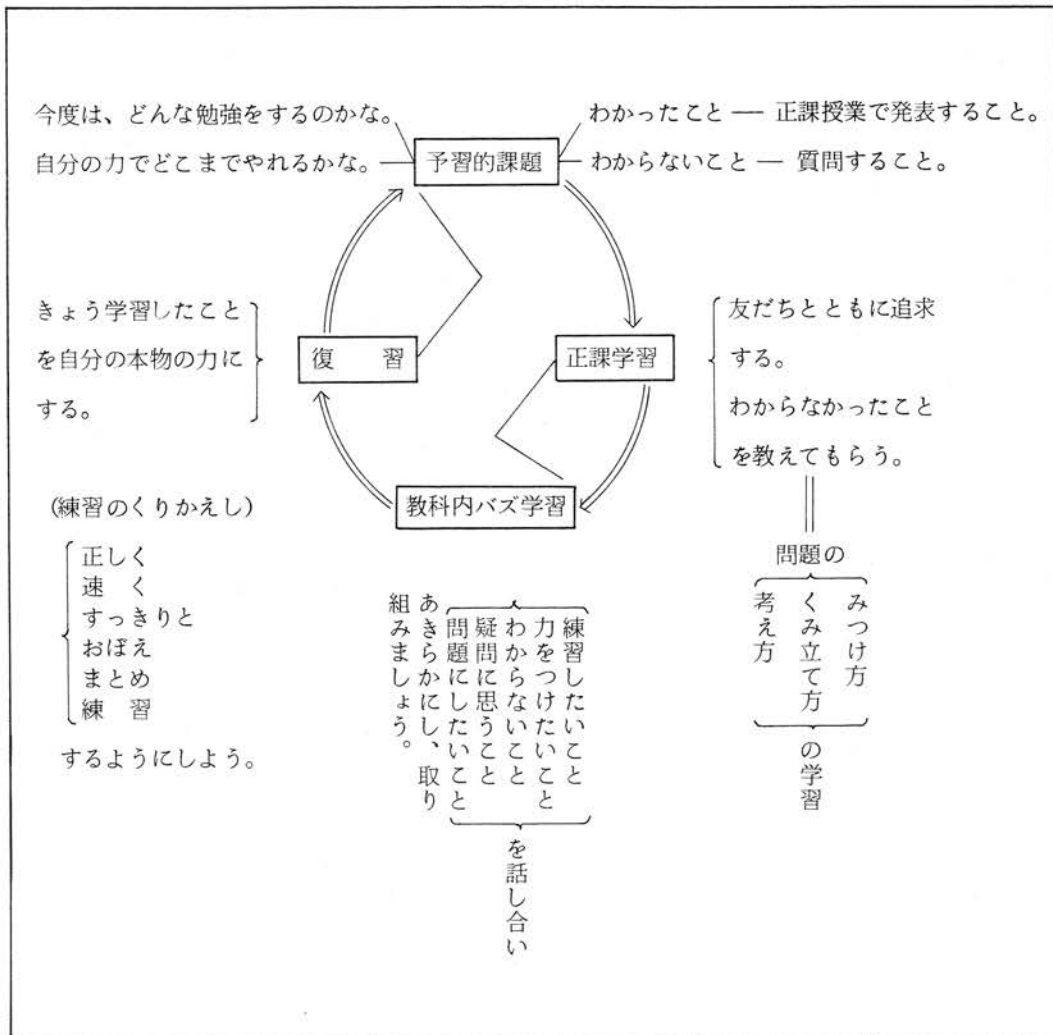
- 5、教科班は先生と連絡をとり、学習の予定計画（前日）、学習の準備（前の休み時間）、予
課発表の司会、後片付け（学習終了直後）など学習の世話をしよう。

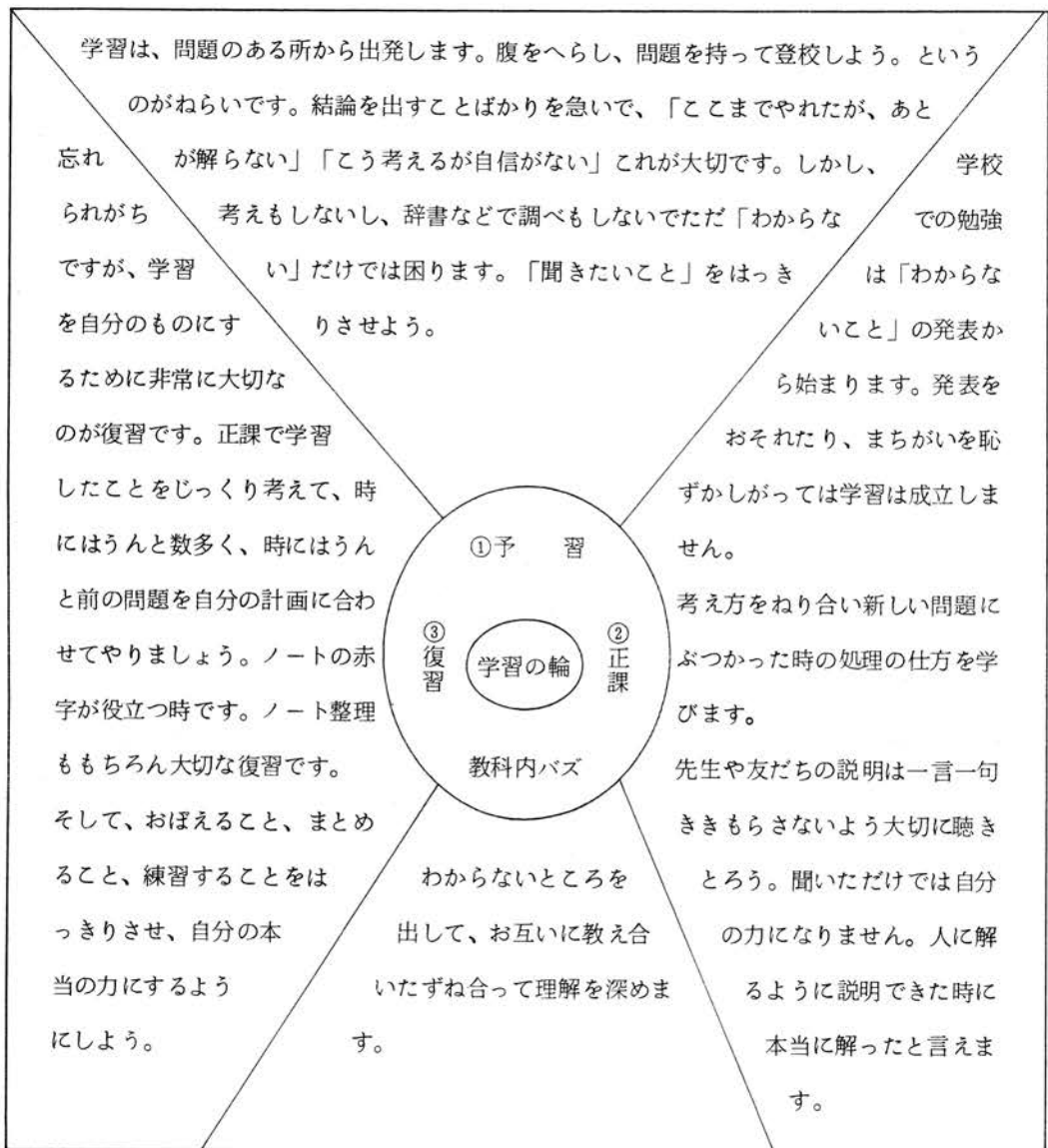
学 習 の 輪

学力は、①予習 ②学校での正課学習 教科内バズ学習 ③家庭での復習 の三つの学習をつなぎ合わせて毎日積み上げて行くことによって高められます。

予習しないと授業で積極的な活動はできませんし、教科内バズをいいかげんにすると授業で学習したことや家庭でどんなところに力を入れて復習すればよいのかメドが立ちません。

復習をしないと学習したことが十分身につきません。どの一つを省いても学習は発展していかないのです。

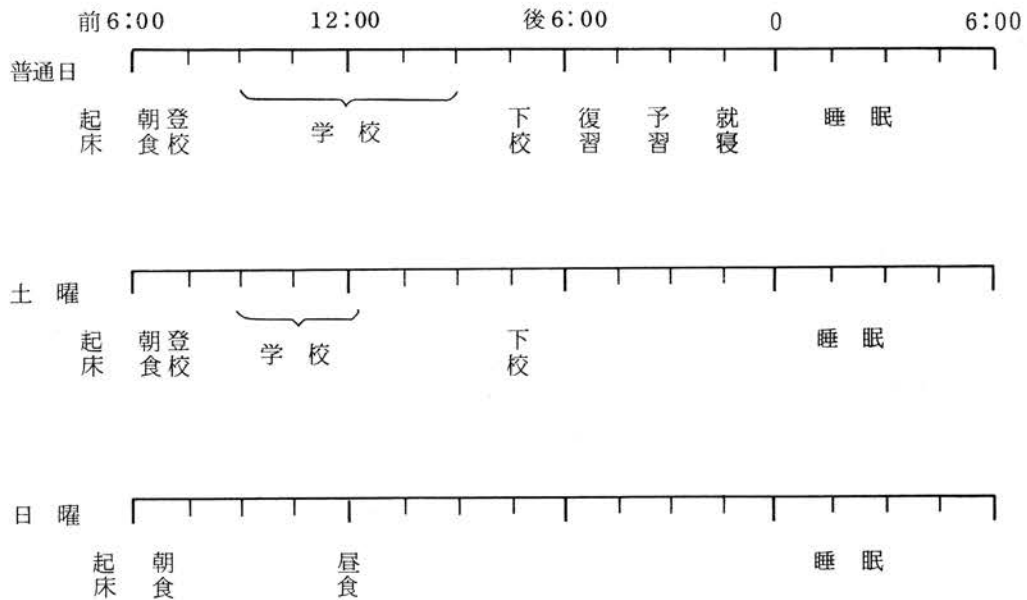




1 家庭学習 (1) 予習課題学習

(毎日1時間内に)

- 「自分は頭が悪い、勉強しても成績は上らない」とあきらめている人がいます。そうではありません。頭と言うものは勉強次第でよくもなり、悪くもなるのです。頼山陽先生は、「人は皆あなたは頭がよいと言うけれど、そうではない。私はただ人よりよけい勉強するだけだ」と言いました。「努力は天才に勝つ」とも言います。
- 一日の生活設計を立て、その中で時間をきめて、家庭の皆さんに相談して予習・復習を必ず実行しましょう。時間は予習1時間、復習1時間半以上はしたいものです。
- 日課表は次のようなことを参考にしてみよう。



- 家庭学習は毎日続けなければなりません。学力は一步一步ついて行くものです。兎式でなく亀式にたゆまず続けて習慣化するようにしたいものです。
- 家庭学習は「自分自身」でやるものです。遊びやテレビを計画しただけにおきえて、思いきりよく机に向う強固な意志が必要です。
あまえた気持ちではなかなか勉強はできません。
- 人にわずらわされれない勉強室(場)を整備出来ればよいと思います。
カーテンで仕切るだけで、けっこう独立した自分の部屋にすることもできます。

予習課題の学習

- 予習課題はあすの授業への心構えを作るために、出されるものです。
一教科15分位で、あすの内容のどこがわからないか、むずかしいか、など 自分として問題を持つために行うものです。
- 簡単に人に答えをきいたり、参考書を丸写しにしたり、塾で先生に聞いたりしてしまつては、明日の授業への意欲が減退してしまいます。ぶちこわしです。
必ず自分一人の考えでまずやってみることが大切です。
- あす学校で学習する範囲課題を見て一通り読んで見る。わからないところ、問題点などにアンダーラインを引いて考えて見ましょう。
- 完全に解答ができなくてもよろしい。どこがむずかしいかどこでつまづいているかを自分で確かめましょう。
- 予習課題はノートの所定の場所に月日(曜日)を記入してから記録します。
- わからないこと、自信のないことなどは質問する準備をしておきましょう。

2 正課の学習

教科学習にとりくんで、これをかみくだき(理解)のみこんで栄養に(体得)する時間です。よそごとに気をとられたり、むずかしさに負けたりすることのないよう、真剣に目や耳・手・足・頭を働かせて活動しましょう。

1、始めのチャイムが鳴り終るまでに席について静かに学習にとりかかりましょう。

- 教科係は(前の休み時間に教材・教具を用意しておいて)司会者の位置について、起立・礼・「お願いします。」
- まずはじめに、予課発表をします。

2、予習のつまづきや問題点をはっきりさせましょう。

- 予習課題は、きょうの学習のねらいに応じて出されるから順番に疑問点を黒板に書いて

発表したり、口頭で述べたりします。

お互いに発表を聞いていて、きょうの学習の問題点をさぐりましょう。

- 疑問や問題点からきょうの学習は出発するのです。まちがいやわからないところがあるから学習しようと言う動機が生れるのです。

3、先生が中心になって今日の学習計画を立てます。(めあて作り)

- きょうの学習の題目やねらいを確認します。
- 予習課題の発表を診断しながら、教材の流れに従って、学習の順序と問題点を組み立て板書します。
- このように学習に対する「めあて作り」がしっかりできないと次の大切な学習の段階が上すべりになり、学力のつくものになりません。

4、これから今日の中心学習に入ります。

- 先生が中心になって学習計画の流れに応じながら個人学習・相互学習・先生の説明などがくみ合わさって展開されます。

(a) 相互学習 — 教科内バズ 仲間作り①

友だち同志課題に向って助けあってとりくむ時です。

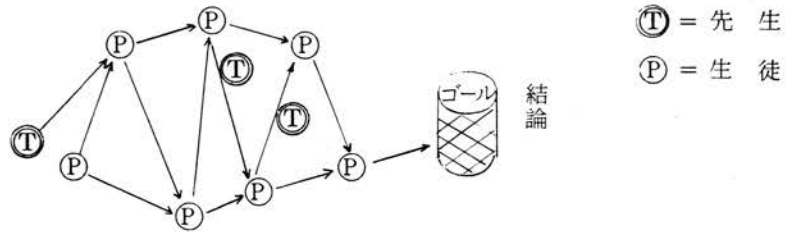
- 友人の発表は語尾までじっくり聴く、自分の言いたいときだけ人の番をよこどりしてまでせっかちに発表しようとばかりしている人がよくあります。人には色々な考え方があるものです。それをじっくり聴かなければ自分の考えは太りません。

- 1、人の発言中は私語しない、嘲笑しない。
- 2、話す人に視線を向けて聴く。目の輝きのない人は勉強していない証拠です。
- 3、自分の意見とどこが食いちがっているか考えながら聞く。
- 4、どこの説明が不明であったか考えながら聞く。
- 5、話す様子のおかしきにとらわれないで話の中味を聴く。
- 6、わからない時は、もう一度発表を要求する。

(. . .)

○ 発言は自分のために、みんなのために — 友人（先生）の一方的な説明をきいているだけでは学力は身につけません。疑問点を質問したり、問題点を発表したりすることを通してこそ、自分自身の勉強になり、学力が身につくものになります。主体的な学習とは、このような学習を言うのです。

○ 話しあいはバスケットの試合のように発展させながら学習を進めるものです。



生徒がみんなチームになっていて、考え合う中でみんなの手で次々に問題が討議され、先生の指導によって協力しながら学習をゴール（解決）へ持って行くことが大切です。

○ 発表は次のことに注意して自分で修練しましょう。

- A、みんなに聞こえる程度の声量で話そう。
- B、みんなの方を向いて話そう。
- C、ゆっくりと順序よく（結論を先に、理由をあとに）話そう。
- D、語尾に気をつけて話そう。（です。ます。思います。どうですか。違いますか。）
- E、学習を発展させるように話す。（そのことについて私は………思います。）
- F、教科書や資料などに根拠を示しながら話す。（×ページの○行目に………）
- G、学習の進行について発言しよう。
- H、ふだん発言の少ない人に発言の機会をゆずろう。

○ 発言の約束

〔バスケット方式で〕

※ わたしたちはことばでものを考えます。ですから知識も自分のことばになったとき定着していくのです。

・めあて作り

しまいは、はっきり「どうですか」と仲間になげかける。

・自分作り

ゆっくり、はっきり、しまいまで自分の考えを述べる。

・仲間作り

バスケット方式で広げる実のある学習をする。

〔話し手〕

「(ゆっくり、はっきり、しまいまで)～と思いますが、どうですか。」

- 1、結論を先に、理由をあとに。
- 2、みんなの反応があるまで立ったまま。
- 3、反応があったら指名して着席する。

〔聞き手〕

(黙って考えながら、メモをしながら聞く。)

・話し合いに参加するとき

「質問」	疑問点があるとき
「もう一度説明してください」	不明点があるとき
「つけたし」	補充点があるとき
「意見」	問題点があるとき
「その他」	相違点があるとき
「言いかえ」	同意点があるとき

- ・考えさせてください
- ・バズさせてください
- ・〇〇君のことばを言いかえると……
- ・たとえば……
- ・比べてみると……
- ・つなげてみると……
- ・もし……ならば……
- ・まとめると……
- ・～という考えがわかりました

進行についての発言や
まとめの発言なども大
切にしよう。

(学習をすすめる発言)

二つの意見をまとめると～ということになりませんか。
まとめて下さい。

(b) 先生の説明 — 一斉学習 — 仲間作り②

一人勉強やバズ学習でわからないことは先生の説明をきいて理解します。

- 学級の全員が姿勢を正しくして先生の説明に集中する時です。聞きもらさないつもりで説明を聞く時です。

わからないことは、納得のいくまで喰いついて質問しましょう。

そのことによって本当に理解ができるのです。

- 指名されたら「ハイ」とはっきり返事をして学級全体に聞える声でみんなの方を向いて答えましょう。答が不十分であったり、間違っている場合は、他の子が立って助けるようにしましょう。

(c) 個人学習 — 一人勉強 — 自分作り

- いつも人の発表をきいているだけでは駄目です。
- 課題について自分の力でまず解決しなければなりません。

解決に立ち向かへながら、こゝがわからない、こゝのつまずきから先へはどうしても出られ

ない。そのところを明確につかむことが大切です。

- つかんだ自分の疑問は、必ず先生の説明や相互学習の中で質問をすることです。
- ドリルの時間は友人にたよらないで、自分の力で頑張りましょう。

5、学習のまとめ

今日一時間の勉強の内容を確かにする時です。

一番大切に基本的な事柄は何か、それを中心にして一つ一つの事柄は、どのような関係で結びついているか確かにします。

6、その後次の四つのことを行って授業を終わります。

- ① 家庭で復習しなければならないのは何かをはっきりさせる。

- 1、まとめる
- 2、覚える
- 3、練習する

- ② 予習課題を先生と一しょに決めます。

◎ 予習課題には次のようなものがあります。

- Ⓐ 用具や材料を準備する仕事（美・理・保体・技家などに多い）
- Ⓑ 今までに学習したことを復習して正課の基礎をたしかめる仕事（理・数・社・国技家・音などに多い）
- Ⓒ 今までの生活経験をまとめてみる仕事（道徳・社会・作文などに多い）
- Ⓓ 調査や資料を作るような仕事（社・学活などに多い）
- Ⓔ 新しい教材にとりくんで見て、わからないこと、つまづきなどを見つけて正課学習に意欲的にとりくむための仕事（国・社・理・数・英などに多い）

- ③ 学習バズでとりあげることは何かをきめる。（先生の指示）

- ④ 今日の授業での学級の活動ぶり、今後の方向について反省しあったり、先生の講評をきく。

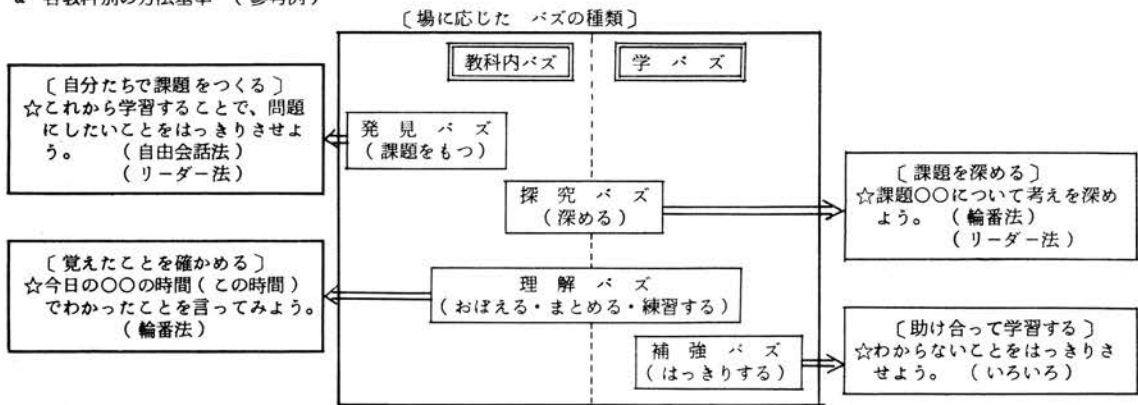
7、姿勢矯正体操（健康部長）

8、挨拶（教科係は起立・礼・「ありがとうございました。」）

(5分)

3 教科内バズ

a 各教科別の方法基準 (参考例)



探究バズの進め方

- 1、(今、先生から)出された課題について深めたいと思います。
- 2、どんな課題であったか、〇〇さん説明してください。
- 3、まず自分の考えを発表できるようにまとめてください。
- 4、では〇〇君(〇〇さん)から、輪番法で自分の考えを発表してください。
- 5、更につけ加えや賛成・反対の意見をそれぞれ出してください。
- 6、大体深まったようですから、今のそれぞれの考えをノートにまとめてください。

理解バズの進め方

- 1、(この時間で)わかったことを言ってみましょう。
- 2、〇〇君(〇〇さん)から輪番法で発表してください。
- 3、つけ加えることやわからないところ(質問)はありませんか。
- 4、では今までの話し合いでわかったことをノートにきちんとまとめておきましょう。

発見バズの進め方

- 1、これから学習することで、問題にしたいことをはっきりさせましょう。
- 2、〇〇さんの問題わかりますか。
- 3、みんなの問題にしてみます。

補強バズの進め方 (プリントを使って学習する場合もあります。)

- 1、(今日の〇〇の学習で)わからないことがあった人は、どしどし出してください。
- 2、説明できる人はありませんか。

指名
対人法
学習リーダー
学習部長
教科係

- 3、今の説明でわかりましたか。
それでは、もう一度説明してもらいます。

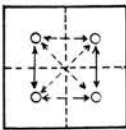
バズの方法

1 輪番法



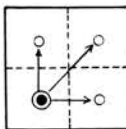
- ◎学習リーダーが、〇〇さんから順に言うてくださいというふうにならしていく。(たとえば、左のように。)
- ◎一人ひとりの考えを全員で確認していくときなどに使う。
(例) 英語の本読み、暗記(定義や単語など)など。

2 対人法



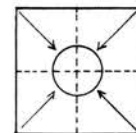
- ◎学習リーダーが、対人法をやって下さいといって、①か②の指示をする。(③の場合は、男子と女子の教材が違う技術・家庭や体育のときなどに用いられる。)時間に余裕があれば、いろんな場合でやってみるのもよい。
- ◎テスト法よりもドリル(練習・訓練)の能力をあげたいときに使う。
(例) 暗記や暗唱など。

3 テスト法



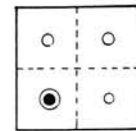
- ◎学習リーダーが確認を同時にとりたいたときに使う。
- ◎ひとつのテーマ(問題)を各々一人ひとりで取り組むときに使う。
- ◎ドリルするとき(学習リーダーが、課題にそのような問題を自分で考えて作り、他のメンバーに同時に取り組むときもある。)

4 自由会話法



- ◎学習リーダーが、まず、メンバー全員にテーマをしっかりと確認させたあと、話し合いましょう。と言って、4人全員で取り組んで自由に会話していく。
- ◎ひとりの子にわからせたいときにも使っていく。

5 リーダー法



- ◎学習リーダーが課題にどう取り組んでいくかを考え、説明しながらやっていく。
- ◎学習リーダーが、ひとつの課題に対して話し合っていくなかでまとめながら、メンバーに合ったやり方(方法)を考えてすすめていく。

4

家庭学習(2)復習

その日の復習
基礎復習

①心構えを作る予習 — ②本当にわかる正課 — ③身につく家庭復習の順に学習は流れをもって発展するものです。この流れのどこかが欠けていても弱くても学力は本当に身につきません。

③は特に①②の仕上げの段階です。しかもたいていは家庭で教科書や参考書を相手に一人で学習するものですから、しっかりした心構えをもって生活設計に基づいて確実に毎日実行したいものです。

従って、予習課題の学習時間より、多くの時間をこの復習にかけるべきです。

(a) 今日学習したことは、その日に必ず復習しよう。

1、ざっと教科書(ノート)に目をとらして読んで見て、今日学習したことは何であったかを思い出しましょう。

◎ そのうちの一番大切な基礎になることは何であったか。

◎ それにつながる重要なことは何であったか。

2、今日の学習内容に関連のある問題を教科書や問題集の中から見つけてドリルしたり解決してみましょう。

3、参考書の丸うつしは何の役にも立ちません。

4、学力は一日、二日で身につくものではありません。毎日のこの復習の積み上げを一学期つづけると、かなり効果が現われるものです。

(b) ノートの形式は教科毎に先生と相談してきめましょう。

明日(曜)・予習欄・正課欄・復習欄・ドリル欄などの場所をきめておくとよいでしょう。ノートは消しゴムを使わず、消す時は必ず赤ペン(鉛筆)で線を引きましょう。復習の「めじるし」になります。

◎ 成績物について

・学習の記録や成績物・作品は自分の学習の足跡です。

大切に保管して復習や予習に活用するようにしましょう。

6 部 活 動

部活動とは、もともと“これがやりたい”“あれがしたい”という皆さんの願いから出発したもので、教科の発展として新しい文化の創造を願って同じことを志す人達が集って自分達から進んで活動するところです。

それでは、部活動の意義めあてとは一体何でしょうか。

1、めあて作り

- 部活動は単なる面白半分遊びではありません。
より高いレベルをめざして、目標をみんなできめ、それに向って常に工夫し、練習して高まって行く仲間同志の自主的な学習活動です。
- 何をする場合でも、目あてがはっきりしていないと、活動も必ずいいかげんになって来ます。個人としても、部全体としてもその日の活動の目あてをはっきりつかんで、しかもその目あてがより高い次の目あてへ発展して行くのだと言う見通しと計画を持って、やってほしいと思います。
- 目あてと言うものは低いところにおくと、それで満足して、それ以上はのびないものです。年間計画や単位時間の活動計画を立て、一つ一つ解決してレベルを高めましょう。
- 顧問の先生・部長を中心にして、部会議やバズを通してみんなで話しあい、しっかりした計画をたて活動して下さい。

- 1、雨の日などに、部会議をひらき、活動計画を立て、みんなで話し合い、活動の目あてと見通しを全員が理解して練習することが大切です。
- 2、目あては具体的にきめることが大切です。
例えば○月○日のどこの練習試合や競技会に出場するために活動を積み上げよう、サーブの力が弱いから今日はサーブを徹底的に練習しようと言うように。
- 3、「めあて」は忘れられやすいものです。毎日の部活動の前に部長の司会で必ず話し合い、思い出して活動にかゝるようにしたいものです。
- 4、活動の後では、反省バズを開いて目あてがどこまで実現出来たか。

メモ

今後はどこに力を入れて活動したらよいかを充分話しあうことも大切です。

その2 自分作り

- 部活動は一人一人が個性をみがき上げるきびしい自主的な活動です。
- 個性をみがき上げて、一芸に秀でるためには、計画・実践・反省のきびしいプロセスを踏んで目あてを一つずつ実現して行かなければなりません。
- 目あてを一つずつ実現して行く勇気、それをファイト・根性と言います。この自分自身に対するきびしさ、がまん強さがなければ何事も上達しません。部活動に当っては一人一人がこのファイトをもってみんなできめた活動計画の一コマ一コマを確実にこなして、身につけて行くようにしたいものです。

1、「今は何をどうする時か」活動のねらいとやり方をはっきり理解して
とり組むことが大切です。

特に体育部では「ファイト・ファイト」と叫んで、お互いに励ましあ
うようにしましょう。

2、先輩や先生の指導に対しては、すなおに進んでやって見ることが大切
です。

「そんなことはできないから」としりごみしたり、不服を言うような
態度では何事も上達しません。

3、初めは誰でも下手なのです。要領をのみこんで、上手になろう、なる
うと千べんも万べんも真剣に繰り返してやっているうちに上手になるも
のです。骨おしみしたり、尻ごみしては駄目です。根性とファイト
をもって時間一ぱい元気ががんばりましょう。そうすることが自分の個
性を磨き出すことになります。

4、体育部に於ける記録や文化部での作品を大切にし更により記録や作品
を創り出すように工夫しましょう。

メモ

その3 仲間作り

○ 部活動は学年や学級の枠をはずして同好のものがグループを作って一つの目標に集中して
活動する組織活動です。

部活動は個人の活動ではありません。

部と言う組織、班という下部組織を作って、その中で一人一人が自分作りをしながら、組織の一員として協力しあって活動するものです。

- 先輩（リーダー）と後輩（フォロアー）が苦楽を共にしながらお互いにきびしく、しかも暖かく指導し助言される中で、共通の目標に向かって助けあい、磨きあうのでなければ部活動とは言えません。
- そのためには、先ずリーダー（部長・班長・係）は活動の計画や目標をはっきり持って組織活動の中心になって暖かく、しかも、厳正・公平にきびしく指導に当ることが大切である。
- メンバーは先づその指示に文句を言わず快く従うことが絶対必要です。
- リーダーへの意見は部会議やバズの中で相互に話しあって、改善するようにしたいものです。

わがまゝで、リーダーの指示にことさらに反対していた日には部活動は成り立たないことを知らなければなりません。

<ol style="list-style-type: none"> 1、時間をきめて集合（始め）、解散（終り）を確実にを行うようリーダーは責任を持って指示しましょう。 2、係は生活バズ終了直後に道具の準備を責任を持って敏速にしましょう。 3、仲間の道具はみんなで大切にあつかい、保管しましょう。 部長は週一回は必ず道具の点検をし、破損・紛失の場合は顧問と相談しよう。部会の日には補修作業をするようにしよう。 4、活動しやすいように、能力や問題に応じて班を作り、班のリーダーや活動計画をきめておきましょう。 5、一人一人が部組織の一員であるとう立場を自覚して、勝手な行動をつゝしみ、みんなが規律正しく活動するようにしましょう。 6、見学者はマネージャ役を引きうけましょう。 7、活動の途中に必ずクラブバズをおりこんで、練習の反省や次の計画について話しあったり、作品を見せあったり展示したりして、みがきあいの機会を作りましょう。見学者はオブバーザーとしてこれに参加して、批評し、世話をしましょう。 	メ モ
------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----

(部活動の時間)

春夏秋冬	3 : 4 5 ~ 5 : 1 5 (下校 5 : 3 0) 〔下校時刻の変更に伴って変更〕
冬 季	3 : 4 5 ~ 4 : 1 5 (下校 4 : 3 0) 冬季トレーニングとして実施
土	1 : 3 0 ~ 3 : 4 5 (下校 4 : 0 0)
第一・ 三日曜	原則として行わない。(特別の場合は学校長に申し出て行う)
長期休暇	予め部会議を開いて計画を立てて実施する。 (日曜日は原則として行わない)

◎ 部全員参加について

部活動は全員参加です。泉中では、次のように部を決定して行きます。

- (1) 4 ~ 5月 第1・第2・第3 希望の部活に仮々入部
- (2) 6 月 仮入部 (入部を前提とした仮入部で、この期間中に調整していく)
- (3) 7月初旬 入部決定

仮入部にこれだけの期間をとるのは、いろいろな部を体験することにより、自分が3年間本当に続けていけるものを見つけるためです。さらには、ひとつの部にたくさんの人が集まりすぎると、試合やユニフォームを着てベンチに入ることすらできなくなります。だから、いろいろな部を体験して決めていくのです。各部とも指導可能な人数があるので、よく考えて決めて下さい。あわてて部活用具など買わないようにして下さい。部が決定したらがんばって活動しましょう。

◎ 部活動の場や備品について

運動場・コート・クラブロッカー・備品・部室などは私たちの部活動を支えてくれる大切なものばかりです。

常に共同のものとして、時々徹底的に清掃整備作業をしたり、修繕したり員数を点検補充したりして、大切に使用する。たゞ、使うだけでなく、大切に心をこめてあつかいたいものです。

(部会議の順序)

部会議は必要に応じて開きます。

- 部会議は
- ① 部の年間計画や組織作り 相談・決定
 - ② 部行事(発表会やビジティング・試合・展覧会など) 相談・活動
 - ③ 人間関係の調整 話し合い
 - ④ 運動競技のルール 学習(先生や先輩にたのんで)
 - ⑤ 部のレクリエーション 活動
 - ⑥ 備品の修理手入れ 活動

などについて相談したり、学習したりするために行います。

部活動はこうした部会議の裏付けがなければ決して向上するものではありません。

リ - ダ -	メ ン バ -	メ モ
<p>1、前日に部長は部会議の内容・日時・場所・準備について予告(放送)しておく。</p> <p>2、前時終了と同時に所定の持ち物をもって部屋に集合する。</p> <p>3、チャイムと同時に開会</p> <p>○部長は議長になり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・提案理由の説明をし ・板書で相談の順序を明示して相談に入る。 <p>書記は部記録に記録する。</p> <p>○相談をまとめてお互いに確認しあうようにする。</p> <p>4、道具の後片付け・黒板をふき・戸締りをする。</p> <p>5、「ごくろうさんでした」の挨拶で解散する。</p> <p>(下校時間を厳守する)</p>	<p>○まじめに、建設的に相談に参加する。</p>	

◎ (部長会)

- 部の運営は自分たちの手で自分たちが行うものであることは始めのページでも述べました。
- 部運営の最高責任者は部長であり、その指導力がすぐれていないと、部活動はうまく行きません。
- その部長が集まって(体育・文化・別々に会を持つことも、合同で持つこともあります。

- ・自分たちの指導力を高める研究をしたり
- ・部毎の問題、部相互の問題、部全体の問題を解決したりする機会が部長会です。

○部長会は部小委の先生を招いて行われます。

○部長会はその代表が司会して次のような研究討議を行い、日々の部運営の向上に努めます。

1、部の運営にあたっての問題点の研究

部活計画の立て方や流し方・班の作り方・チーム・ワークの向上などいろいろな問題点を話しあって解決する。

2、運動場や体育館、備品の使い方や整備について

3、部の予算の配分や活用、備品の保管について

4、部の発表会や試合の結果などについて相互発表と懇談

5、部相互の間の問題の解決

6、新入生の入部とその指導について

7、不活発な部への助言

8、部研究会の開催について

9、生徒会との関係、学級との関係について

◎ 部活動は自分たちの手で

○先生が指導に出ることのできるのは一週間の中でわずかです。

この日先生は部活動の進め方や班長やメンバーの活動のし方について指導します。

○その他の日には本当に自主的・協同的にみんなの力だけで活動するのです。

先生のいない時の部活動の姿が皆さんの部のレベルを示します。

部長や班長は責任をもって、部をリードし、メンバーはこれに協力して、堅い団結（チーム・ワーク）をもって活発に活動してほしいと思います。

生活の手引

保健室の利用のしかたについて

保健室での3づくり

- | | |
|----------|-------------------------------------------------------|
| 「めあてづくり」 | なぜ、保健室へ来たかははっきりさせる。 |
| 「自分づくり」 | 病気やけがをした原因を考え、反省したり、自分の健康状態を知り、さらに「たくましい心身」の保持増進に努める。 |
| 「仲間づくり」 | 病気やけがで来室している他の子の気持ちを考え、静かに落ち着いた行動をとる。 |

利用のしかた

- ① 保健室の出入りは、かならず先生の許可を得るようにしましょう。
- ② 入室時は「失礼します」「失礼しました」のあいさつをしましょう。
- ③ つきそい（保安委員・友達）は必要でない時、すみやかに戻りましょう。
- ④ 来室した理由は自分ではっきり言いましょう。
- ⑤ 授業を大切にしましょう。
 - イ、授業が始まりそうで、授業が受けられそうな時は次の休み時間に来室しましょう。
 - ロ、授業中、気分が悪くなった時も、がまん出来れば、休み時間まで頑張るようにしましょう。
 - ハ、授業中、来室する時は、教科の先生に申し出て、保安委員のつきそいで、来室しましょう。
 - ニ、傷の状態をみきわめ、小さい場合は休み時間に来室しましょう。
- ⑥ 測定器具・健康に関する本は使用の目的を言い、許可を受けてから使いましょう。
 - 身長計・体重計・視力計・体温計・図書等
- ⑦ ベッドは、休養が必要と認められた人以外は使わないようにしましょう。
 - 使用した後は、元のようにたたみましょう。
- ⑧ 保健室での大声での会話は、他の人の迷惑になります。つつしみましょう。
- ⑨ 小さな傷で、自分または友達同志で傷の手当てをした場合は、薬品の片づけはきちんとしましょう。
 - 来室記録にきちんと記入しましょう。
- ⑩ けがをした時、救急薬は自分でとりに来るようにしましょう。
- ⑪ 保健室を出る時は、「ありがとうございました」「失礼しました」のあいさつをしましょう。

推 薦 必 読 図 書

分類 番号	書 名	著 者 名	類 号	書 名	著 者 名
1	君たちはどう生きるか	吉 野 源三郎	4	ひきさかれた大陸	小 畠 郁 生
1	生きることに〇×はない	戸井田 道 三	4	少年少女科学名著全集シリーズ	(国 土 社)
1	君の可能性	斉 藤 喜 博	5	幸運な失敗	菊 池 誠
1	やがて大人になる君たちに	横 谷 輝	5	月を歩いた二時間十五分	相 島 敏 夫
1	友情について	羽 仁 説 子	5	スピード物語	石 山 光 秋
1	ぼくは負けない	黒 薺 哲 哉	5	家庭科の教室シリーズ	(小 峰 書 店)
1	キミよ歩いて考えろ	宇 井 純	5	道は生きている	富 山 和 子
1	心の底をのぞいたら	な だ い な だ	6	インディアとともに	川 口 幸 男
1	若ものよ 君らは	丸 木 政 臣	6	鉄道ものしり事典	お の つ よ し
2	人間のあゆみ	イリン・セガール	6	塩のはなし	飯 島 俊 一 郎
2	女王ヒミコのなぞ	たかし よいち	7	美術の心をたずねて	箕 田 源 二 郎
2	ひとが生まれる	鶴 見 俊 輔	7	スポーツの夜明け	城 丸 章 夫・永 井 博
2	いっぱいひまわり	早 船 ち よ	7	運命は扉をたたく	ひ の ま だ か
2	ナポレオン	金 沢 誠	8	楽しい漢字しらべ	友 野 一
2	ヘレン・ケラー	榎 恭 子	8	じょうずな話し方	亀 井 一 正
2	日本列島ものがたり	井 尻 正 一	8	語源のたのしみ	岩 淵 悦 太 郎
2	地図の話	武 藤 勝 彦	8	ことばの秘密	石 黒 修
2	おはなし日本地理シリーズ	(岩崎書店)	8	漢字の話	藤 堂 明 保
3	美濃とひだの昔話	岐阜県 校長会	8	少年少女のための手紙の書き方	稲 垣 友 美
3	土岐のむかし話	土 岐 市	8	大空のうた	斉 藤 喜 博
3	わたくしたちの憲法	宮 沢 俊 義	8	楽しくなる英語	江 川 泰 一 郎
3	なるにはBOOKSシリーズ	(ペリかん社)	9	西遊記	呉 承 恩
4	フェアブルの昆虫記	フ ェ ー ブ ル	9	三国志	羅 貴 中
4	宇宙をはかる	森 本 雅 樹	9	故事と成語	(大石智良編)
4	科学的とはどういうことか	板 倉 聖 宣	9	雨月物語	上 田 秋 成
4	play puzzle	高 木 茂 男	9	今昔物語	(作者不詳)
4	チンパンジーを追って	伊 谷 純 一 郎	9	平家物語	(")

分類 番号	書 名	著 者 名	分類 番号	書 名	著 者 名
9	枕草子	清 少 納 言	9	赤毛のアン	モンゴメリー
9	徒然草	吉 田 兼 好	9	にんじん	ル ナ ー ル
9	日本の詩	遠 藤 豊 吉	9	車輪の下	ヘ ッ セ
9	こころのうた	(童 心 社)	9	ジャンクリストフ	ロ ー ラ ン
9	翼あるうた	新 川 和 江	9	狭き門	ジ ャ ー ド
9	坊ちゃん	夏 目 瀨 石	9	大 地	パ ー ル バ ッ ク
9	ビルマの堅	竹 山 道 雄	9	アンクルトムの小屋	ス ト ウ
9	智恵子抄	高 村 光 太 郎	9	星の王子さま	サンテグジュペリ
9	走れメロス	太 宰 治	9	老人と海	ヘ ミ ン グ ウ ェ イ
9	しろばんば	井 上 靖	9	若草物語	オ ル コ ッ ト
9	一握の砂	石 川 啄 木	9	足ながおじさん	ウ ェ ブ ス タ ー
9	野菊の墓	伊 藤 佐 千 夫	9	信 号	ガ ル シ ソ
9	芋 粥	芥 川 龍 之 介	9	ああ無情	ユ ー ゴ ー
9	高瀬舟	森 鷗 外	9	アンネの日記	ア ン ネ ・ フ ラ ン ク
9	兔の眼	灰 谷 健 次 郎	9	シェークスピア物語	チャールス・ラム
9	ガラスのうさぎ	高 木 敏 子	9	ハムレット	シェクスピア
9	路傍の石	山 本 有 三	9	ヴェニス商人	〃
9	塩狩峠	三 浦 綾 子	9	ギリシャ・ローマ神話	ブルフィンチ
9	化石山	岸 武 雄	9	宝 島	スティブンソン
9	清兵衛と瓢箪	志 賀 直 哉	9	イワンのばか	トルストイ
9	若菜集	島 崎 藤 村	9	貧しき日々	ドストエフスキー
9	よだかの星	宮 沢 賢 治	9	父と子	ツルゲーネフ
9	友 情	武者小路 実篤			
9	浮 雲	林 扶 美 子			
9	花のき村の盗人たち	新 美 南 吉			
9	次漏物語	下 村 潮 人			
9	ああ野麦峠	山 本 茂 実			
9	翼は心につけて	関 根 庄 一			
9	十五少年漂流記	ヴ ェ ル ヌ			

ルールを守って

たくさんの本を読もう

○ひとり1冊まで借りれます。

○貸し出し期間は2週間です。

○禁帯出のラベルがついている本は原則として貸し出しません。

(どうしても必要な場合は、図書館の先生に申し出て特別貸し出しの許可をとります。)

○本を借りる時は、次のような手続きをします。

- 1、代本板棚の自分の代本板を出す。
- 2、代本板ラベルを入れ、分類・書名などをわかりやすく書く。
- 3、代本板にラベルを入れ、借りる本をとり出したところへ立てる。
- 4、ブックポケット(本の後ろの表紙の裏についている)から、書名カードを出し、組・氏名などを書く。
- 5、書名カードを出口の方にあるカードケースの自分の組のところへ入れる。
- 6、帯出者カードケースから、自分のカードをとり出し、書名・借りた日・返す日を書き入れ、借りた本のブックポケットへ入れる。

(注) 分類は、本の背にはってあるラベルに書いてある通りに書く。(例)

913	(ラベル)
ア	
7C1	

○本を返す時は、次のような手続きをします。

- 1、入口の方にあるカードケースから、自分の書名カードをさがし出す。
- 2、ブックポケットにその書名カードを入れ、帯出者カードを出す。
- 3、代本板を立てたところへ行き、代本板をとり出し、返す本を入れる。
- 4、帯出者カードを、自分の組のところへ返す。
- 5、代本板ラベルを抜きとり「ラベル入れ」に入れる。
- 6、代本板をもとの棚へ返す。

学年色	
分類	
題名	
返す日	借りた日
組・番号	
氏名	

(代本板ラベル)

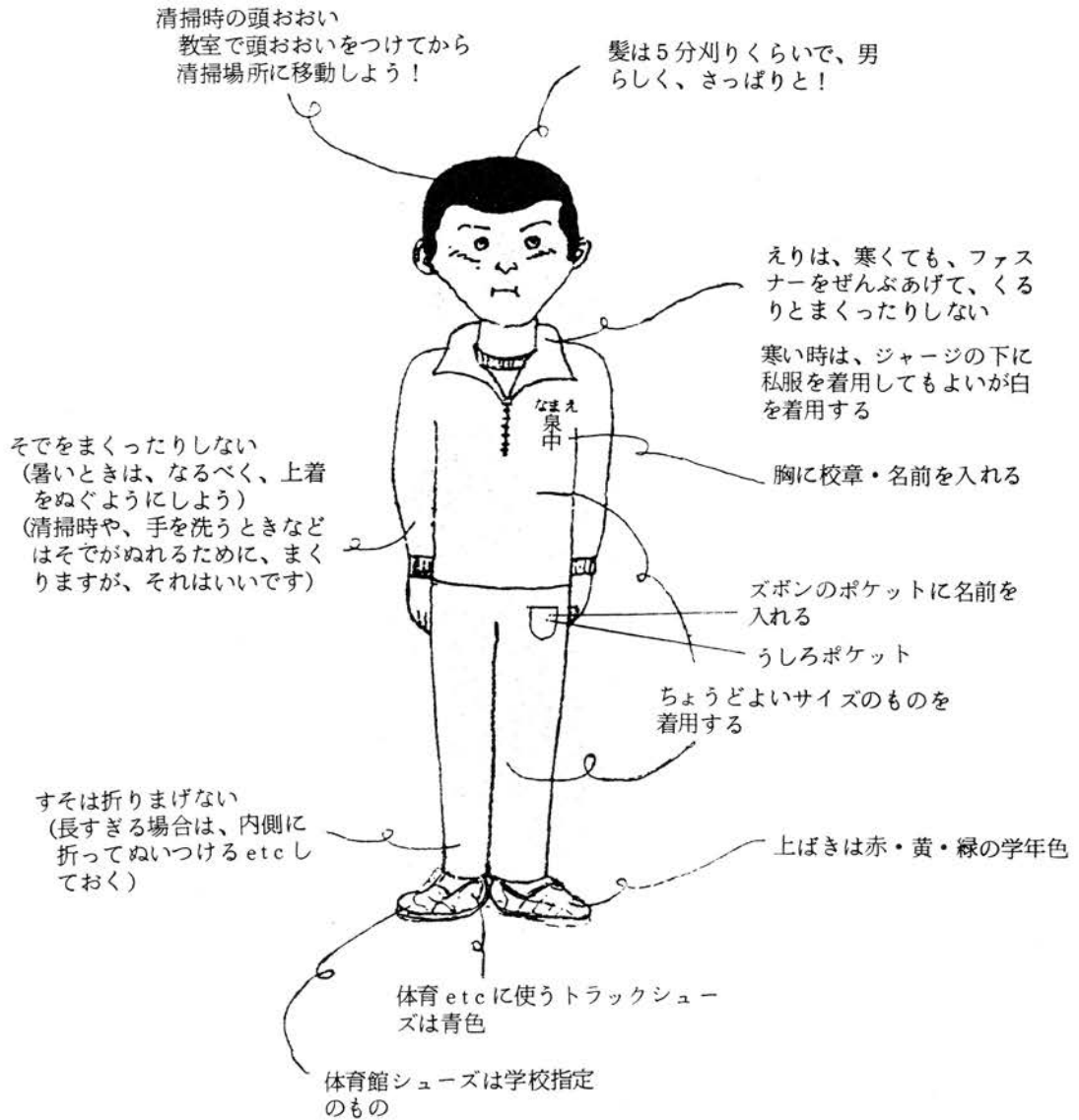
正しい服装（男子）

<登・下校時の服装>



泉中学「正しい服装」参照

<校内における服装>



正しい服装（女子）

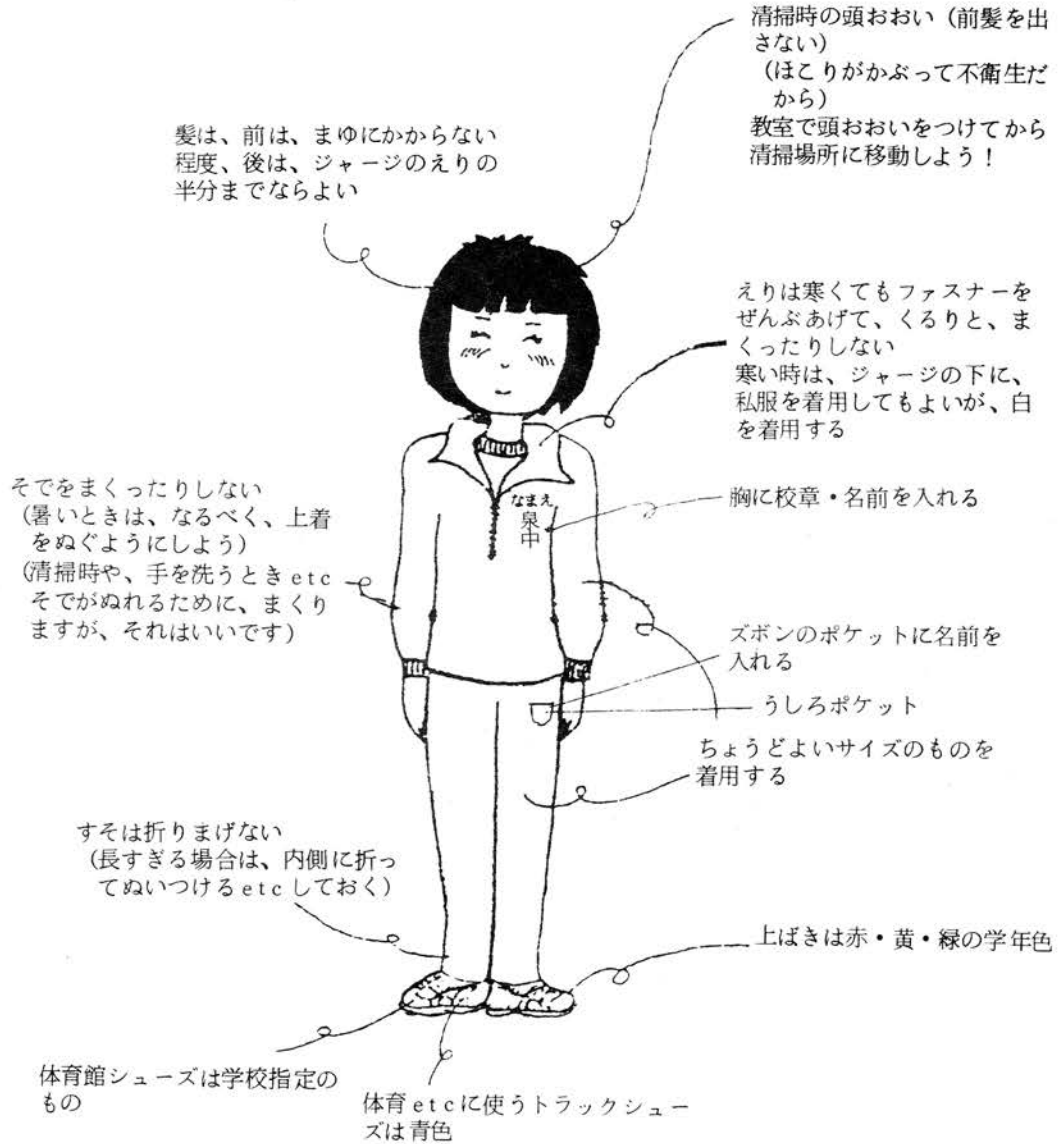
<支那の文化の対比>

<登・下校時の服装>



泉中学「正しい服装」参照

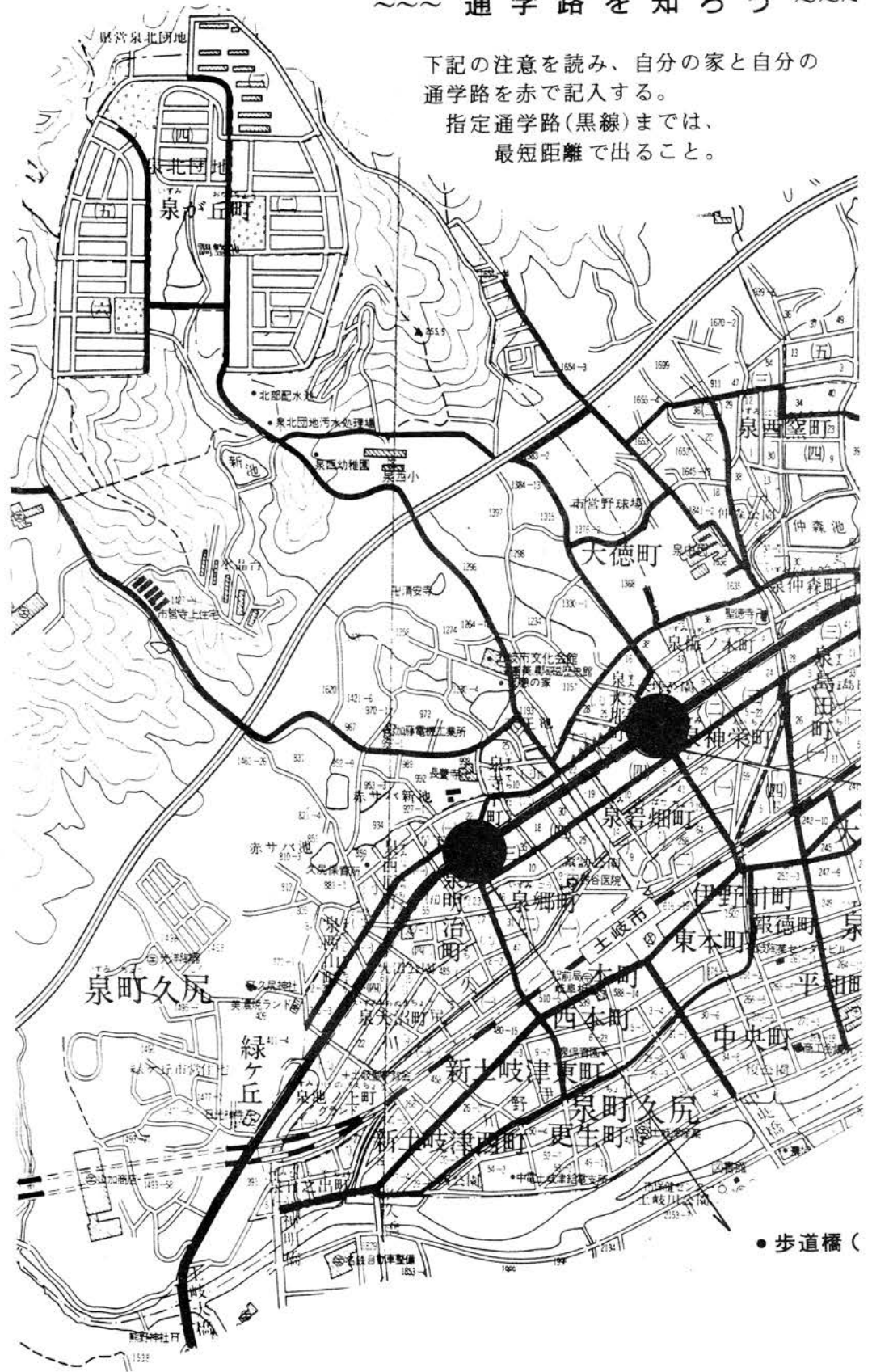
<校内における服装>



〜〜 通学路を知ろう 〜

下記の注意を読み、自分の家と自分の
通学路を赤で記入する。

指定通学路(黒線)までは、
最短距離で出ること。



● 歩道橋 (

●歩道橋(21号横断)

●歩道橋(19号横断)



●地下道(国道19号および大富踏切)

19号横断)

登下校の注意

国道19号と21号を横断しなければならない人は、上の地図上に示してある歩道橋と地下道を必ず利用すること。決して横断歩道をわたってはいけません。場合によっては、自分の家が横断歩道をわたればすぐ目の前なのに、大きくまわり道をして、歩道橋や、地下道を利用しなければならないこともあります。朝夕、多くのおみなさんが横断歩道を利用すればとても危険ですし、交通もとても混雑します。自分の身の安全とまわりの人たちへの迷惑を考え、交通マナーを守って登下校して下さい。